



平成25年度 マルセン10号

発行日／平成26年3月
発行所／公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団
所在地／〒700-0023 岡山県岡山市北区駅前町1丁目2番4号
電話／(086) 800-0077 ファックス／(086) 800-0055
URL <http://www.marusen-zaidan.or.jp/>

(本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています)

SPORTS & CULTURE MARUSEN

平成25年度 NO. 10



公益財団法人
マルセンスポーツ・文化振興財団



CONTENTS

ごあいさつ	2
財団法人の概要	3
役員・評議員名簿	5
平成 25 年度財団の事業報告	6

I 公益事業

第1章 助成事業関係

1 スポーツ活動に対する助成	6
2 文化活動に対する助成	7

第2章 表彰事業関係

1 マルセン大賞	8
2 マルセン特別賞	8
3 マルセン賞	9

贈呈式

受賞者からのひとこと

1 マルセン大賞	スポーツ	荒木 絵里香	11
		清水 聡	12
		福元 美穂	13
		宮間 あや	14
		山口 舞	15
	文 化	水戸岡 鋭治	16
2 マルセン特別賞		佐藤 常子	17
3 マルセン文化賞		上田 久利	18
		岡山バツハカンタータ協会	19
		草間 喆雄	20
		鴻八幡宮祭りばやし保存会	21
		難波 由城雄	22

第3章 イベントの開催

1 スポーツ	23
2 文 化	23

第4章 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業

ホットコーナー	日本のバレーを変える選手	26
	現代かな美の頂点「まだ 道半ば。まだまだ未熟」	28

II 収益事業

平成 25 年度 財団の収益事業	30
------------------	----

III 財団の活動

法人管理

参 考	活動助成事業	広報実績のまとめ記載例	(1) スポーツ	31
			(2) 文 化	33

資 料

事業の記録	助成 表彰 イベント・後援等	36
平成 24 年度 収支決算書		41
貸借対照表		42



公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、岡山県のスポーツ・文化の振興発展と県民の皆さまが健康で豊かな心をもって生活できる環境・社会の実現を願い平成16年2月に設立されました。今年度は、設立より10年という節目を迎え、公益財団へ移行するなど気持ちも新たに活動してまいりました。

表彰事業では設立10周年を盛り上げて頂くかのように、先のロンドンオリンピックにおいて、岡山県ゆかりの5名ものメダリストが誕生いたしました。また、助成事業においても今まで以上の多くの方々を応援することができました。記念事業として行いました写真展においては、お盆にも関わらず非常に大勢の皆様にご来場いただき、とても嬉しく思っております。こうして10年間活動できましたのも、皆様方のお力添えの賜物と深く感謝いたしております。

この度も、当財団の活動の記録といたしまして「マルセン」第10号の発刊の運びとなりました。どうぞ高覧のうえご指摘を賜れば幸いに存じます。ご協力を賜りました関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

今後とも地域の皆さまのスポーツ・文化活動に貢献できますよう一層の努力を重ねてまいりますので、引き続きご指導及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団
理事長 千原 多美子

財団法人の概要

I 概 要

財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団は、平成16年2月20日付けで設立。その後、国における公益法人制度の抜本改革として制定された公益法人制度改革に係る3法が平成18年6月2日に公布。平成20年12月1日施行。新たな公益法人制度に移行。平成25年4月1日、公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団として移行登記、新たに歩み始めました。

当財団は、定款第3条で、その目的を「岡山県のスポーツ・文化の振興発展を支援するとともに県民が健康で豊かな心を持って生活できる環境・社会の実現に寄与する」と規定し、その目的達成のため、次の5項目

- 1 スポーツ・文化活動に対する助成
 - 2 スポーツ・文化活動に対する表彰
 - 3 スポーツ・文化に関するイベントの開催
 - 4 スポーツ・文化に関する広報啓発育成事業
 - 5 その他目的を達成するために必要な事業
- を定め積極的に活動しております。

II 沿 革 (概要)

平成 16 年 2 月 27 日	財団設立。岡山市富町二丁目 4 番 4 号に事務所を設置
平成 16 年 3 月 26 日	初代理事長に千原多美子就任
平成 16 年 12 月 14 日	第 1 回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動助成金交付式の開催
平成 16 年 12 月 23 日	第 1 回スポーツイベント協賛 第 23 回山陽女子ロードレース大会
平成 17 年 2 月 28 日	晴れの国おかやま国体へ助成 2 回目 平成 17 年 7 月 14 日
平成 17 年 3 月 11 日	第 1 回文化イベント 岡山フィルハーモニック管弦楽団第 26 回定期演奏会チケットプレゼントの実施
平成 18 年 1 月 13 日	財団のロゴマークの選考・決定
平成 18 年 4 月 1 日	公益法人指導監督担当課の変更により岡山県教育委員会から岡山県知事所管となる
平成 18 年 8 月 4 日	コミュニティライブラリーの設置 (岡山市駅前・岡山会館 1 階) 「晴れの国おかやま国体写真展 あ感動をもう一度！」 表彰者紹介コーナー ・ 映像コーナーの設置
平成 18 年 11 月 3 日	川島 基ピアノリサイタルの開催
平成 19 年 11 月 2 日	第 19 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア 2 0 0 7」「生涯学習見本市」に出展
平成 20 年 3 月 8 日	マルセン少年サッカー教室の開催 (岡山湯郷ベル)
平成 20 年 11 月 9 日	岡山県生涯学習フェスティバル 2 0 0 8 「マルセンバレーンアート教室」の開催
平成 20 年 12 月 1 日	新公益法人制度施行により「特例民法法人」となる
平成 21 年 2 月 25 日	「マルセン写真コンテスト入選作品展」岡山天満屋地下タウン 「アートスペース」において開催 (3 月 2 日まで)
平成 21 年 3 月 8 日	「マルセン少年陸上競技教室」の開催
平成 21 年 6 月 24 日	第 25 回国民文化祭おかやま 2 0 1 0 への助成金贈呈。 2 回目 平成 22 年 5 月 13 日

役員・評議員名簿

役員

平成26年1月1日現在

役 職 名	氏 名	会 社 名
理 事 長	千 原 多美子	(株)成通 取締役
常務理事	千 原 秀 則	(株)センインターナショナル 代表取締役社長
理 事	加 計 孝太郎	学校法人 加計学園 理事長
〃	川 崎 誠 治	学校法人 川崎学園 理事長
〃	越 宗 孝 昌	(株)山陽新聞社 代表取締役社長
〃	吉 岡 洋 介	(公財)ワコースポーツ・文化振興財団 理事長
監 事	衣 笠 和 孜	岡山療護センター センター長
〃	信 朝 寛	元岡山県審議監

五十音順 敬称略

評議員

役 職 名	氏 名	会 社 名
評 議 員	馬 越 績	馬越績税理士事務所 所長
〃	大 田 弘 之	テレビせとうち(株) 取締役相談役
〃	北 尾 好 昭	(株)瀬戸内海放送 常勤顧問
〃	千 原 行 喜	(株)成通 代表取締役社長
〃	中 川 洋 一	西日本放送株式会社 岡山本社 中国総支社 支社長
〃	野 崎 誠 二	岡山ネットワーク株式会社 代表取締役社長
〃	原 憲 一	山陽放送(株) 代表取締役社長
〃	平 松 掟	平松弁護士事務所 (元日本弁護士連合会副会長)
〃	藤 田 土 義	(株)成通 相談役
〃	宮 内 正 喜	岡山放送(株) 代表取締役社長
〃	若 狭 正 吾	岡山エフエム放送(株) 代表取締役社長

五十音順 敬称略

顧問

役 職 名	氏 名	所 属
顧 問	伊 東 香 織	倉敷市長
〃	大 森 雅 夫	岡山市長

五十音順 敬称略

平成 21 年 7 月 17 日	岡山市北区駅前町一丁目 2 番 4 号へ事務所を移転
平成 21 年 8 月 6 日	「マルセン写真コンテスト入賞絵はがき」のプレゼント
平成 21 年 10 月 18 日	マルセン少年バレーボール教室の開催（岡山シーガルズ）
平成 22 年 1 月 13 日	「スポーツ・文化の振興についての論文」入賞者表彰式の開催
平成 22 年 3 月 5 日	「悠久への回帰 高橋秀 展」チケットプレゼントの実施
平成 22 年 8 月 5 日	「マルセン小学生ソフトボール教室 in 岡山ドーム」の開催 （平林金属女子ソフトボール部）
平成 22 年 8 月 12 日	新田 佳浩氏（スポーツ大賞）理事長へ表敬訪問
平成 23 年 7 月 8 日	新公益法人制度移行に伴う「最初の評議員の選任方法」の認可
平成 23 年 11 月 3 日	「川島基&松本和将 ～スーパーピアノデュオリサイタル～」演奏会の開催
平成 24 年 3 月 4 日	成通グループ・(財) マルセンスポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天イーグルス野球教室の開催
平成 24 年 3 月 10 日	2012 プロ野球オープン戦チケットプレゼント
平成 24 年 9 月 21 日	公益法人認定に向けて「移行認定申請書」を県知事あて提出
平成 24 年 10 月 5 日	「前橋汀子ヴァイオリンリサイタル」チケットプレゼント
平成 24 年 11 月 11 日	第 2 回航空フェア「フライトシュミレータによる航空教室」の開催 東北楽天イーグルス少年野球教室の開催
平成 25 年 2 月 9 ～ 10 日 3 月 2 ・ 3 日	「バレーボール V ・プレミアリーグ」チケットプレゼント
平成 25 年 3 月 9 日	人形浄瑠璃「文楽」チケットプレゼント
平成 25 年 3 月 18 日	移行認定許可（岡山県知事）
平成 25 年 4 月 1 日	公益財団法人マルセンスポーツ振興財団と改称
平成 25 年 5 月 17 日	「ルパンティック・ジャズ・ナイト」チケットプレゼント
平成 25 年 6 月 26 日	平成 25 年度理事会及び評議員会において「収益事業の廃止及び定款の一部変更」 案並びに「定款変更申請」を承認
平成 25 年 7 月 20 日	岡山県文化のつどい 第 1 回「美作国建国 1300 年～津山洋学・知は海より来たる～」 講師 臼井 洋輔氏・下山 純正氏
平成 25 年 8 月 13 ～ 18 日	創立 10 周年記念展「表彰者色紙展及び自然と遊ぶ・写真展」の開催
平成 25 年 9 月 12 日	岡山県老人福祉施設協議会へ写真展の「写真の贈呈」 38 施設
平成 25 年 9 月 19 日	岡山県文化のつどい 第 2 回「日本から始まった柔道文化」 講師 古賀 稔彦氏
平成 25 年 9 月 21 ～ 22 日	「山陽新聞レディースカップ」チケットプレゼント
平成 25 年 10 月 24 日	第 10 回マルセンスポーツ・文化賞表彰式及びスポーツ・文化活動 助成金贈呈式の開催並びに歴代表彰者等との懇親会
平成 25 年 10 月 27 日	財団主催プロバスケットボール試合「高松ファイブアローズ対島根スサノオマジック」 の開催及びチケットプレゼント並びに PRESENTS 小中学生交流戦の開催
平成 25 年 10 月 28 日	RSK ラジオ「おかやま元気応援団」に活動助成金贈呈者 28 団体 出演（10 月 28 日～ 12 月 17 日の毎週月・火曜日各 2 団体出演）
平成 25 年 12 月 6 日	定款変更認定（収益事業の廃止）（岡山県知事）
平成 26 年 2 月 21 日～ 4 月 6 日	レオナール・フジタとパリ展 チケットプレゼント
平成 26 年 3 月 2 日	東北楽天イーグルス少年野球教室の開催
平成 26 年 3 月 4 ～ 9 日	プロ野球オープン戦 チケットプレゼント（主催：楽天イーグルス）

平成25年度 事業報告

(I)公益事業

第1章 助成事業関係

岡山県内において、スポーツ・文化の振興及び発展に寄与するため下記の諸事業に助成を行いました。

1 スポーツ活動に対する助成 (応募数 /18 件 採用件数 /13 件)

番号	団体名	活動名	活動目的 (内容)
1	FC Viparte	Coppa Viparte カップ	助成を受けて入賞メダルや大会運営に使用するラインカーの購入に使用いたしました。今までは、大会参加費のみではクラブ負担が大きく会員の会費のみで運営している責任者にとって父母会の理解を得るために、十分な事例だったと感じています。 試合当日の悪天候の中での大会も、選手たちは、色々な人達に支えられて自分たちがプレーできていることを学んだと思います。
2	岡山城・後楽園カヌー駅伝大会実行委員会	岡山城・後楽園カヌー駅伝大会	旭川にコースを設置して実施する。岡山城カヌーの時期、岡山城を見上げる旭川の水面を、京橋朝市会場を起点に後楽園に沿って鶴見橋の北まで周回するコースを1チーム4人で4周するカヌーリレーを開催した。また大会前日には岡山と全国カヌー愛好者との交流を深めた。 56チーム224人の選手によるタイムトライアル競技を実施。風の有無によりタイムは変わるが、1位のタイムが次回参加者の目標タイムとなり、参加者の増加と春の風物詩となるよう取り組みます。
3	岡山西軟式野球スポーツ少年団連絡協議会	岡山西軟式野球スポーツ少年団錬成交流大会	岡山西軟式野球スポーツ少年団創部20周年を記念した大会を開催する。大会運営を円滑に行うため、助成を受けて大会関係者用Tシャツを整備しました。 兵庫県から6チーム、広島県から3チーム県内から31チームが参加し、熱戦を繰り広げた。大会関係者からの指示がスムーズに伝わり、大成功でした。今後も活用します。
4	NPO 法人 吉備スポーツ王国	第20回『ビーチカップ』小学生ハンドボール大会	主に全国各府県代表の小中学生によるハンドボール大会。競技大会の機会を提供することにより体力の増強と健全で豊かな心の育成を図ることを狙いとして実施。この時期は、全国最強チームを選出する大会となっており、各県選抜チームの参加が多い。前回は、男女2チーム合計42チームの参加で、今年は男女49チーム980人が参加しました。
5	久世剣道クラブ (典武館道場)	剣道防具の購入	スポーツ少年団として、毎週 火曜日・木曜日・土曜日の午後7時～9時まで活動している。少子化により、高学年の子供達が少なくなり、低学年を加えて、対外試合に参加することになり、低学年用の用具等整備に助成をお願いし、幼年用防具セット等を整備しました。 今回の整備により、団員も一層奮起し、活発に練習に励むとともに試合へも参加し日頃の成果を発揮しています。
6	NPO 法人 倉敷スポーツ倶楽部	NPO法人倉敷スポーツ倶楽部主催ソフトボール・フットベースボール大会	小学生の子供達を対象にスポーツを通じ礼儀・ルール・マナーを重んじ活力のある人間に育つことをテーマに活動をしています。 大会は、3市2町からチャレンジカップ(ソフト・フット)の大会を春・夏・秋の3回開催、9月にはちびっ子大会、12月には6年生大会3月には新人戦を行うことにより子供達のスポーツの楽しさ、礼儀作法を身につけさせた。
7	倉敷フィギュアスケATINGクラブ	強化練習及びイベントを通じての普及活動	クラブ運営は、佐々木監督の指導・助言のもと全ての保護者がクラブの代表から会計・ジム大会担当等全てに関わり実施している。高橋大輔選手や田中刑事選手を育成し、幼児から大学生まで40数名の部員の基に、選手育成:強化練習とともにフィギュアスケート教室の開催などの普及にも努めてきている。高橋選手のように第3・第4の選手の発掘を目指しています。
8	勝央町スポーツ少年団	第42回美作地区スポーツ少年団柔剣道大会	美作地区のスポーツ少年団員が一堂に会して、勝央町武道館・勝央中学校体育館に分かれ、柔道の部では、小学低学年・高学年の部・中学校の部の団体戦。個人戦では、4年生以下の男・女、5・6年生の男・女、中学1年生、2・3年の男、中学女に分かれて行った。 剣道の部では、団体戦で、小学校低学年の部、高学年の部、中学校男子の部、女子の部に分かれ全てトーナメント方式で試合を実施した。参加少年団 柔道 87団体 204人、剣道 112団体 559人の参加がありました。今後とも団員の増加に努めたい。
9	スポーツネット一宮	第7回ふれあいスポーツ大会	「結ばう絆・広げよう元気の輪」をスローガンに中山中学校区の幼児から年配の方まで学区を超え年代を超えてスポーツを楽しむながら明るく元気な町づくりを目指した大会を開催した。 競技種目は、学区対抗3競技、小学生・幼稚園児・小学生から大人の参加のオープン競技4競技、参加者全員参加のものなど10競技を行い、中学生との関わりを深め、中学校区内の親睦の輪が広がりました。(中学生ボランティア185名、小学生20名、地域から95名 計300名の協力) 参加者1,500人
10	総合型地域スポーツクラブ 桃太郎夢クラブ	車いす陸上競技の普及講習会及び強化練習	これまで、健常の幼児から高齢者及び障害を持つ者を対象にランニングの練習会や普及活動を行ってきた。今回の申請では、肢体不自由者の車いす陸上競技者に焦点を当て、普及のための講習会と競技力向上を目指した練習会を実施した。 広報は、障がい者施設、学校等への案内及びホームページで行った。講習会は、月2回・計20回、参加費無料、練習会は、毎週1回の実施で70人～120人の参加者があった。
11	津山中央フェニックス野球スポーツ少年団	学童(小学生)軟式野球	野球を通してスポーツマンシップとフェアプレイを学び、野球が大好きな子供達を育てること。また、野球以外の様々なことを体験することで、小学生の時から社会性を身につけ、思いやりの気持ちなど協調性を養い、健やかで調和のとれた体と心の成長を遂げ、生涯に渡りスポーツを続けることを目的として活動しました。①土・日・祝祭日等の練習②各種大会への参加③夏と秋の合宿④マラソン大会等スポーツイベントへの参加⑤他チームとのキャンプ⑥地域行事への参加⑦月1回の奉仕作業等を行いました。
12	日置当流 徳山弓道場	徳山弓道場380周年記念射会	記念射会では、約104名の弓道家や一般の方を招待し、競技会と体配の披露を行いました。「体配」とは弓を使用した儀礼・作法です。当道場の体配は、江戸時代には岡山藩主の御前で披露されていた形を残す貴重なものですが、50年間諸事情により開催されていなかったため、知る者も減少し、次世代への継承が緊急の課題となっていた。この機会に正式の体配を認識するとともに、門下生が一丸となって取り組めたことで連帯感が生まれたことが良く、今後に備えて、動画・写真・文章の作製をし、後世に伝えたい。
13	陵南フットボールクラブスポーツ少年団	陵南FCスポーツ少年団活動	「サッカーの練習や試合を通じて子供達が自ら考えて発送する…そしてそれが継続されることを大切に考える」を基に活動を行っている。創立以来、ボランティアのコーチと保護者による運営で、多くの子供達にサッカーを楽しむ、協調性や思いやりの精神、自立心を育んできた。日頃の練習の成果が、各大会で発揮できるよう保護者と一体となり頑張ってきたが、各大会での成果は、今少しであったが、子供達は次を目指して元気に頑張っています。

2 文化活動に対する助成 (応募数 /57 件 採用件数 /17 件)

番号	団体名	活動名	活動目的 (内容)
1	あかいわアートラリー	あかいわ ART RALLY 2013	2010年国民文化祭の提案事業として開催した第1回あかいわアートラリーは、「人と自然とアートをつなぐ」というテーマで実施した。 第2回目の今回は、赤磐市内の歴史的文化財や観光・文化施設にアート作品を設置し、「食」を加え、そこを巡る人々が文化を感じ自然に親しむことで新たな地域づくりを目指すアートプロジェクトです。・赤磐市内20か所で開催。全会場で21,000人の入場者があった。
2	大島まちづくり協議会	大島歴史散歩史蹟MAP作成事業	地元大島の歴史について、地区民の理解を深め、安全で安心の出来る魅力あふれる町づくりを具体的に推進する方策の一つとして地区民一体となって取り組み「大島歴史散歩史蹟MAP」を刊行し、地元民へはもとより、小学校へも配布、学校行事の一つにも取り上げてもらい地区民によるウォーキングも実施し大好評でした。
3	岡山県刻字協会	第3回岡山県刻字協会展	平成22年『第25回国民文化祭おかやま2010』を契機に芽生えた岡山県初の刻字団体として、県内を中心に活動を高め、今回は、九州千歳会(12名)及び大阪春日会(20名)の参加を含め、61名による91作品を展覧し、刻字は、「書・刻・彩」の総合芸術であることを証明した。また、刻字体験教室を開催し、28名の参加者が篆書サイズに挑戦した。
4	岡山県パレエ連盟	岡山県パレエフェスティバル2013	岡山県内パレエ文化の支援育成と振興、パレエ文化の活性化を目的として、活動している。連盟10周年を年記念して、加盟するパレエ教室の選抜メンバー30人による「クラス・コンサート」をメインに第1部 花園 第2部 ジェリー及び人間賛歌を発表し、妖精たちは、1,200名の観客から称賛をうけた。
5	吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会	吉備特殊器台復刻プロジェクト	吉備特殊器台は、弥生時代の王墓の祭祀に使用された吉備独特の土器で、吉備が「ヤマト王権誕生」の中心とする定説を支える象徴とし、考古学者・教育関係・街づくり団体さらに備前焼作家の応援を得て、復刻に取り組んだ。 謎だった焼き方「稲藁覆い型野焼き」にたどり着き、11月2日無事4基の器台復刻に成功しました。「考古学」「陶芸界」のプロとアマが結集した本プロジェクトがそれぞれの世界に新たな展開を生み出し、古代吉備から岡山のすばらしい未来につながることを願っています。
6	熊澤蕃山顕彰保存会	熊澤蕃山顕彰活動	熊澤蕃山の偉業を讃え、講演会活動等を行っている。活動の柱として、正楽寺での講演会、公民館を中心としている。場所の移動に伴う演題予備及びプロジェクターの整備が必要としていたが課題解決となり、参加者に多くの資料提示できることとなり充実した活動ができることとなりました。
7	里庄町立図書館	「セロひきのゴーシュ」朗読とミニコンサート	公民館創立20周年のメイン行事の一つとして、「セロひきのゴーシュ」朗読とミニコンサートを行いました。 招聘の「山猫合唱団(語り1名、チェロ・ピアノ奏者各1名の計3名)」は楽器を演奏しながら宮沢賢治の作品を演ずる音楽集団で、この物語りは音楽があり、わかりやすいものでしたので、子供34、大人60計94人は、童話の中の曲を初めて聞き大きな感動を得たと好評でした。
8	玉島文化振興会	「乙島まつり読本」発行	倉敷市玉島乙島地区では、地元の「乙島祭り 千歳衆(山車、太鼓台)」が担ぎ手不足が深刻化していることから地域文化の継承と発展を願い小学生3年の総合学習の時間に合わせ、補助教材として、使用できる冊子を発行した。学校へは、出前授業も行い、子供達が地域の祭り文化を体感できるよう努めた。
9	津山《風と光と心の劇場》実行委員会	ミュージカル「風の野っ原」本公演	当実行委員会は、住民の人材育成・生涯学習として、「新しい風と未来の光あたたかい心の調和」を主題として発足した住民中心の団体です。1994年立ち上げから、ミュージカル「黒媛物語」、子供ミュージカルジャパニーズ「オズの魔法使い」、ミュージカル「銀河鉄道」、「ヘンゼルとグレーテル」に続く、第5のミュージカル「風の野っ原」の完成本公演を上演した。本事業ににおけるコンセプト「楽しむ」「感動する」「創造する」のもと、年齢層・職業等を超えて住民の多数が創造の世界へ参加することができました。今後も人づくり、人の心を大切にします。
10	津山だんじり保存会	平成25年度津山まつり(徳守神社まつり)だんじり巡行責任者法被の作製	津山まつりは津山市内の大隈神社・高野神社・徳守神社の3つの神社まつりの総称。例年、10月の第3土日と第4土日に開催されている。 徳守神社は約400年の歴史があり、今年は、美作国建国1300年を迎え、近代で最も盛大な祭り開催が予想された。だんじり巡行の安全確保の観点から責任者が着用する法被を整備し、円滑な支持・対応ができ、集まった1万人の観客に津山祭りの素晴らしさをPRすることができた。
11	出合いのアート実行委員会	「出合いのアート in OKAYAMA」ドキュメンタリーフィルム上映会(玉島滞在6週間)	当実行委員会は、2010年から活動を開始しており日本とドイツの芸術を通した国際交流と地域の活性化を目的に活動しています。 2012年に県の主催事業として開催し、ドイツから来日したアーティストによる子どもたちへのワークショップや地元との交流もあり好評であった。その交流の様子をドキュメンタリーとして撮影し、活動の意義と今後に向けて顕彰するため編集作業を進め、4月27日にドイツで完成。ドイツと日本で上映会を行った。 大部会でなく小さい町で、質の高い文化交流となりました。出来上がったフィルムは、今後も活動の資料として活用する。
12	NPO 法人 灯心会 スカイハート灯	こころの灯展	当会は、障がいのある方々が、社会で自立して生活して行くための支援をしています。その活動の一つとして創作活動への支援、優れた作品の数々を様々な方に観ていただくため新見地域の障がいを持った方々との共同制作作品も一緒に展示しました。 新聞やテレビで取り上げてもらい、特別展からのお客もあり多くの観覧があり、灯心会の活動やアーティストのことを知ってもらえました。
13	美つくりの里 旅するアート実行委員会	美つくりの里・旅するアート	今年は美作国建国1300年の年であり、その中心となる津山周辺で開催する。衆楽園をメイン会場に地域内の若手作家を含む現代アート作家複数の作品展示行った。また県内外への文化活動の情報発信も併せて行い、アーティスト、地域の人々、来場者との交流を通じて文化活動を活性化に貢献できました。(9月26日～10月20日で延べ9,200人が来場)
14	NPO 法人 文化探偵社	岡山で撮影された映画や映像の歴史をできるだけ古くまでさかのぼり、フィルムや映像データの所在を確認してその修復と保存に取り組む活動	岡山県内には、貴重な映像資料を収集保存し、広く一般に公開するための公的な機関や組織がない。フィルムや映像の歴史をできるだけ古くまでさかのぼり、岡山で撮影された映画や映像を調査・紹介してきた。映画誕生から120年、デジタル化が進む今、フィルムを修復する設備や上映環境が失われてしまえば、多くの映像資料がゴミとなる恐れがあり、情報収集をする。そしてデータベース化しそれを元に、必要に応じフィルムの修復保存の幹線仲介も行う。最後にその成果を広く県民に紹介し地域の歴史や文化史に新しい光を当て、町おこしや観光資源の開発に向けた提言も町おこしや観光資源の開発に向けた提言を行った。
15	(公財) 美作学術文化振興財団	美作国建国1300年記念事業 第10回ミマサカドモ絵画展	絵画を通じた美作地域の子どもたちの交流と、美術教育、情操教育の推進を目的に昭和59年より毎年実施。平成15年度より勝央美術文学館の開館に合わせて名称を「ミマサカドモ絵画展」に改め、今回10回目となる。これを記念してより多くの作品を集め充実した展覧会を目指した。美作3市5郡の小学校全てに案内し毎年40校500点前後の作品応募があり、勝央町美術館で1/6～2/2まで展示、絵の持つ魅力を披露した。
16	宮内踊り保存会	宮内踊り保存振興事業	宮内踊りの保存振興のため、保存振興大会の開催、後継者の育成を行う事業で次の事業を行った。 毎月第3日曜日に踊り、首領の練習を鯉山学区コミュニティハウス又は小学校体育館で実施。 鯉山学区の各町内会で練習・稽古を実施。後継者の育成に努めた。 吉備津神社夏祭り奉納踊り大会を実施するに当たっては、助成を受けた首領関係の整備により練習や大会での首領の効果があり、広く保存振興に努めることができました。
17	山手福山合戦太鼓	25周年記念公演	平成元年に地域に根ざした郷土芸能活動として発足。和太鼓を通して子どもたちに歴史ある郷土への理解と誇りを持たせるとともにみんなと力を合わせ演奏する喜びを実感できる活動として取り組んできた。 25周年を記念して、近隣の子どもたちの太鼓の団体と一緒に山手公民館を会場に演奏会を実施しました。4団体 約47名の参加

第2章 表彰事業関係

① マルセン大賞

平成24年度スポーツ活動において国際大会で、特に優秀な成績業績を収めた個人並びに文化活動において文化の振興に著しく貢献した個人を表彰した。

【マルセンスポーツ大賞】(副賞／100万円)

- **荒木 絵里香** 【バレーボール競技】
 - 2012年7月～8月開催された「第30回オリンピック競技大会(ロンドン/2012)」において日本女子バレーボール主将としてチームをまとめ、28年ぶりの銅メダル獲得に大きく貢献し、日本国民がともに喜び、郷土の誇りとして県民・市民に大きな夢と勇気を与えた功績は多大である。
- **福元 美穂** 【サッカー競技】
 - 2012年7月～8月開催された「第30回オリンピック競技大会(ロンドン/2012)」の日本代表(なでしこジャパン)として出場し、日本女子サッカー悲願のメダルを獲得(銀メダル)という快挙を成し遂げた。福元選手は、全6試合の内5試合に先発出場、正GKとして何度もビッグセーブを連発、日本の準優勝に貢献した。
なでしこジャパンの銀メダル獲得は、日本国民がともに感動し、大きな夢と勇気を与えてくれた。その功績は誠に多大である。
- **宮間 あや** 【サッカー競技】
 - 2012年7月～8月開催された「第30回オリンピック競技大会(ロンドン/2012)」の日本代表(なでしこジャパン)として出場し、日本女子サッカー悲願のメダルを獲得(銀メダル)という快挙を成し遂げた。宮間選手は、全6試合にフル出場、主将としてプレー面と精神面でものチームをまとめ、攻守の要として大活躍し日本の準優勝に貢献した。
なでしこジャパンの銀メダル獲得は、日本国民に感動と夢、勇気を与えてくれた。その功績は誠に多大である。
- **清水 聡** 【ボクシング競技】
 - 2012年7月～8月開催された「第30回オリンピック競技大会(ロンドン/2012)」ボクシング競技バンタム級において、日本人としては、44年ぶりとなる銅メダルを獲得した。その活躍は、日本ボクシング界、そして岡山県民に大きな夢と勇気を与えてくれた、その功績は誠に多大である。
- **山口 舞** 【バレーボール競技】
 - 2012年7月～8月開催された「第30回オリンピック競技大会(ロンドン/2012)」の女子バレーボール競技において予選プールAの強豪ドミニカ選に先発出場し、持ち前の安定感でメダル獲得に貢献した。その活躍は、日本国民がともに感動し、岡山県民に大きな夢と勇気を与えてくれた。その功績は、誠に多大である。

【マルセン文化大賞】(副賞／100万円)

- **水戸岡 鋭治** 【美術 デザイン】
 - 岡山市北区吉備津に生まれた水戸岡氏は、JR吉備線や吉備津神社など「感動した記憶を思い起こし今の時代にアレンジする新商品が生まれる。アイデアの源は故郷にある」と語る。
 - JR九州の列車等のデザインに関わって以来、九州新幹線の800系車両や観光列車「ゆふいん」など近未来的な外観、座席や内装に自然木や金箔を採用するといった既存観念にとらわれない車両づくりは海外での評価も高く国際的鉄道コンテストで最も権威ある「ブルネイ賞」を4回受賞している。岡山でも「MOMO」などのほか総社市では、町並み景観整備に携わる。
 - 今年に入っても北近畿タンゴ鉄道の観光列車用の車両、「デザインは公共のために」を信条に地域の活性化、ローカル鉄道の再生に大きく貢献しており、その思想、手法への注目は高まるばかりである。その功績は、岡山県民の誇りであり、若いデザイナーの憧れの星である。

② マルセン特別賞

平成24年度において、マルセン文化賞と同程度の功績等を挙げた個人を表彰した。

【マルセン特別賞】(副賞/30万円)

- **佐藤 常子** 【工芸 染織】
 - 昭和46年に独学で染織をはじめ、独自の創意工夫と熱心さ、天賦の才から3年目に岡山県展に初出品初入賞の快挙を達成。以後県内の岡山県美術展等のほか、日本伝統工芸会中国支部展、日本伝統工芸染織展、そして日本工芸展などをベース仁県内外での染織作品の発表を意欲的に行っている。
制作の特徴は、まず白糸を染めることから始まる。自宅栽培の材料はもとより自然素材を涉猟して煮出して染め、得られた色彩の糸を選びぬき、経糸として、これを一本一本、機織機に掛け、推敲を重ねた設計図を基に修練された技法を駆使し、ひたすら丁寧に緯糸を折り込んでいき「繊細にしてダイナミックな美」を創出する。特に「縞」は独壇場で「佐藤の縞」として他の追随を許さない。「佐藤常子の縞」を出版した。
今後、工芸作家として、工芸会の索引役としての貢献は大であり、後進の育成に期待が大きい。

③ マルセン賞

平成24年度 文化活動において、文化の振興に貢献した個人、団体を表彰した。

【マルセン文化賞】(副賞／30万円)

- **上田 久利** 【美術 彫刻】
 - 「第44回日展」(第3科彫刻、平成24年11月2日～12月9日)において、「耳をすまして一枇杷の実がうれるころー」が、日展会員を対象にした会員賞(日展において第2番目)に選ばれた。これは評議員に対し与えられる最高賞の内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞(二つの賞は同列で毎年交互に与えられる。)に次ぐ荣誉で、特選とは上の大変素晴らしい賞である(会員には唯一の賞)。作者は日彫展では昭和50年より、日展でも昭和53年より連続入選しており、日展特選も平成2年、平成4年に受賞し審査員も2回経験した、押しも押されぬ実力者である。
- **岡山バッハカンタータ協会** 【音楽 合唱】
 - 昭和60年、小澤征爾指揮、バッハ「口短調ミサ」の演奏をきっかけとして、バッハのカンタータ演奏を目的に結成。平成5年よりヘルムート・ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハゾリステンと「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」を岡山、東京で共演。いずれもライブCDを発売。他、ペーター・シュライアー、ヘルムートリリングなど世界の冠たるバッハ指揮者と共演。地方都市岡山を本拠地とする芸術性の高い合唱団としての評価を獲得。また、度々オーストリアのザルツブルグ、ブラウナウ、ドイツのライプツィヒ、クヴィトリンブルグ等で演奏会を開催。特に平成23年5月、バッハのふる里「聖トーマス教会」での演奏会は、東日本大震災復興支援のために、トーマス教会が主催。日本を代表して復活の祈りをバッハの墓前で献奏が許されている。平成24年9月には、新イタリア合唱団と東京・岡山で共演。好評を博し平成26年5月にはイタリアのフィレンツェ、ヴェニス、アッシジで共演が予定されるなど、ますます世界に向けて発信をしている。
- **草間 詰雄** 【美術 テキスタイル】
 - 平成24年11月に中国・上海近郊の南通市で開かれた「第7回国際ファイバーアート・ビエンナーレ」において、幅4mの3点を組み合わせた二重織の大作「夜明け」が、2位の銀賞を受賞した。世界37ヵ国・地域から寄せられた835点から選ばれた快挙である。作者は、昭和51年米国芸術基金(NEA)クラフトマンフェロウシップグラント受賞に始まり同62年第1回際テキスタイルコンペティション'87優賞・通商産業大臣賞受賞、同13年文化庁派遣芸術家在外研修員・米国など国際的に活躍中である。アートを目指す若者に大きな希望の光、夢と感動を与えたその功績は誠に顕著である。
- **鴻八幡宮祭りばやし保存会** 【無形民俗文化財 伝統芸能】
 - 夏季国体(平成17年度)をはじめ、各種行事の記念公演に参加し、鴻八幡祭りばやしの周知に努めるなど、積極的な活動を展開している。
また、小学校の音楽授業において和楽器の演奏指導を行うなど、地域に密着し、地域の伝統文化の保存継承と地域活性化に向けて取り組んでいる。
節目毎に記念式典を開催しており、平成23年10月には、参議院議員や岡山県知事、倉敷市長等をはじめとする来賓や関係者650人を迎え「鴻八幡宮祭りばやし保存会設立45周年・同発表会30回・岡山県指定重要無形民俗文化財指定15周年記念式典」を大々的に行った。
こうした積極的な活動は、伝統芸能の保存・伝承に大きく貢献しており、地域文化の向上に果たした功績は顕著である。
- **難波 由城雄** 【美術 写真】
 - 26歳から写真を始めたが、岡山後楽園をライフワークに、持ち前の粘り強さ、旺盛な研究心、たゆまぬ努力・研鑽、特にマクロレンズや超広角レンズも駆使しながら、自然美を追求している。
平成24年の1年間、毎土曜日に山陽新聞夕刊に連載された「竜のすむ聖地、龍ノ口山」は、氏の撮った「龍ノ口山」に関わる幻想的な自然の写真に、詩人のなんば・みちこさんの詩がコラボして好評を博した。また、オランダ・ファンボメル・ファンダム美術館で3か月にわたって「写真家、難波由城雄の目が見た-岡山後楽園」が開催された。(写真集・コレクションも)現地の人々に感動を与え本物が見たいとの称賛を博した。このような快挙は、岡山写真界、後進の育成に果たす役割は、誠に大であり今後ますますの活躍が期待される。

※ マルセンスポーツ賞の該当者なし





贈呈式

と き:平成25年10月24日(木) 午前11時より

ところ:ホテルグランヴィア岡山「フェニックス」

式次第:

1 開 式	5 大賞受賞者あいさつ
2 あいさつ	6 助成金贈呈
3 来賓祝辞	7 助成団体代表あいさつ
4 表彰状及び副賞贈呈	8 閉 式



受賞者からのひとこと

マルセンスポーツ大賞 バレーボール競技・荒木 絵里香



マルセンスポーツ大賞
受賞して

この度は、名誉あるマルセンスポーツ大賞を頂き、誠にありがとうございました。

ロンドンオリンピックでは、真鍋監督のもと、目標としてきたメダルを獲得することができました。

小学生の時に、岡山、倉敷でバレーボールを始めた頃からの夢であった、オリンピックでメダルをとることが実現できたこと、同時にたくさんの方に応援して頂き、銅メダル獲得を喜んでもらえたことがほんとうに嬉しく思います。

北京オリンピック後、キャプテンに就任し、とまどい、悩み、考えながらの日々でしたが、素晴らしいチームメイト、スタッフと共に戦った毎日は、大変充実した時間でした。

沢山の関係者の方の支え、ご声援のおかげで、このような名誉ある賞を受賞させて頂くことができ、ほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年、結婚をし、現在妊娠中で、競技から少し離れています。しかし、バレーボールへの情熱はまだまだ衰えていません。出産後、体調を見て、家族の協力も得ながら、競技復帰を考えています。

新たな挑戦になりますが、これからもバレーボールを通して、未来を担う子供たちに夢を与えられるように、多くの方に応援してもらえるようなアスリートでいれるように、頑張りたいと思います。今後とも、あたたかいご声援よろしくお願いします。



マルセンスポーツ大賞

ボクシング競技・清水 聡


 マルセンスポーツ大賞を
受賞して

この度、スポーツ大賞を受賞させて頂き、大変名誉なことと思います。2012年のロンドンオリンピックで銅メダルを獲得できましたが、私がメダルまでたどり着くことができたのも、この岡山県でボクシングと出会えたからだと思います。

私は中学生の頃に近所のボクシングジムでボクシングを始め、関西高校に入学して本格的にボクシングを学びました。ただ、ボクシング人生は必ずしも順調だった訳ではなく、挫折もありました。

高校時代は、人間関係や早朝練習のつらさにボクシング部を一度は退部するようなことがあったのですが、先生の暖かいご指導もあり、ボクシング部に戻り、ボクシングを続けることができました。高校時代に学んだボクシングこそ、私のボクシングの基礎であり、私がオリンピックでメダルを決めたパンチも砲丸投げパンチと自分で呼んでいます。これも高校時代に先生から教わったものです。この時代に学んだことこそ、私の人生を作ったといっても過言ではありません。

そして、このメダルによって、人生も大きく変わりました。ロンドンオリンピック以降、東日本大震災で被災した地域を訪問したり、東京オリンピック招致活動に参加させて頂いたりして、社会に自分のボクシングそして自分の存在を役に立たせることができました。

9月8日の2020東京大会が決まった時は本当に嬉しかったです。日本全体がスポーツに対して大きな期待と希望を持ったのではないかと思います。私自身は東京大会まで現役を続けられるか分かりませんが、選手でなければ、コーチか何らかの支援スタッフとして東京大会成功に貢献したいと思っています。

とりあえず、2016年リオデジャネイロ・オリンピックでは、今回よりも良い色のメダル獲得を目指します。未だやれる気力も体力も十分ありますので、これからも応援お願いします。



マルセンスポーツ大賞

サッカー競技・福元 美穂


 マルセンスポーツ大賞
受賞にあたって

この度は、栄えある「マルセンスポーツ大賞」に選考していただき誠にありがとうございます。マルセンスポーツ・文化振興財団の皆様に御礼申し上げます。またこの場をお借りして、これまでご指導くださいました多くの方々、12年間所属している岡山湯郷 Belle、そして日頃から応援して下さる皆様に心から感謝申し上げます。

昨シーズンはロンドンオリンピックにて銀メダルを獲得することができました。予選リーグを1勝2分と2位で突破し、決勝トーナメントでは準々決勝でブラジル、準決勝ではフランスと強豪国との激戦を勝ち抜き、決勝進出を決めました。相手はワールドカップ決勝の相手と同じアメリカでした。結果は1-2で敗れましたが、共に戦った仲間やメダルを目指し続けた日々を誇りに思える銀メダルだと思っています。

ワールドカップではなでしこジャパンというチームとして優勝をしましたが、自分自身、試合に出場する機会がなく個人的に悔しい思いがありました。ワールドカップ後からオリンピックまでの間、日頃からのチームメートでもある宮間あや選手の支えや協力もありオリンピックへ向け最高の準備をすることができました。オリンピックでは多くの試合に出場することができ、チームに少しは貢献することができたのではないかと感じています。そういう素晴らしい舞台でサッカー選手としてプレーできるのは、常日頃から、ここ岡山の地で存分に練習に励む環境があるからだと思います。今後共、地元の皆様に熱く応援していただけるようなチームであり、選手であり続けたいと思います。これからもより一層の努力を続けていきたいと思っていますのでご声援の程、宜しくお願い致します。

岡山湯郷 Belle



マルセンスポーツ大賞

サッカー競技・宮間 あや


 マルセンスポーツ大賞
 受賞にあたって

この度は、「マルセンスポーツ大賞」という大変素晴らしい賞を受賞し誠に光栄なことに感謝しております。マルセンスポーツ・文化財団関係者の皆様、また日頃から温かいご声援を頂いている皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。

2012年に開催されたロンドンオリンピックになでしこジャパンの選手として参加し、銀メダルを獲得することができました。その前の年にドイツで開催された女子サッカーワールドカップで初優勝をしていたので、オリンピックへの国民の皆様の期待をとても強く感じて挑んだオリンピックでした。世界中の強豪国が集まるオリンピック、特に女子サッカーの世界では男子サッカーと違いワールドカップよりもオリンピックの方が知名度が高く、私達自身もオリンピックの金メダルを取りたいという強い思いを持っていました。結果的には金メダルには届かず、銀メダルとなってしまいましたが、チームメイトと戦い抜いた日々はかけがえのない宝物として心に残っています。また、個人的な思いではありますがここ岡山で10年以上という長い年月を共に過ごし、切磋琢磨しながらサッカーに励んでいる福元美穂選手と2大会連続で一緒にオリンピックのピッチに立てたことをとても嬉しく思っています。私達にとって、ここ岡山での1日1日がオリンピックという舞台に導いてくれたと思っています。地元の皆様の声援が何よりも力になっています。

今後共皆様に、目には見えない形かもしれませんが、心で心に恩返しをできるように努力をしていきたいと思います。

何卒応援の程宜しくお願い申し上げます。

岡山湯郷 Belle



マルセンスポーツ大賞

バレーボール競技・山口 舞


 マルセンスポーツ大賞
 受賞して

この度は、「マルセンスポーツ大賞」という名誉ある賞をいただき大変光栄に思っております。マルセンスポーツ・文化振興財団関係者の皆様、また応援して下さいる皆様に感謝しております。

岡山シーガルズに入団し、日本のトップリーグで戦い、監督、仲間から様々なことを学びながら成長を実感するうちに、夢であった全日本への挑戦が開けてきました。自分の武器であるスピードに磨きをかけ、また不得手な部分と真剣に向き合うことで安定感も増し、2009年全日本に初選出。他のメンバーに比べ高さやパワーは足りなかったものの、ミスの少なさやスピードを生かした変化のある攻撃が評価され、2010年には世界選手権で32年ぶりの銅メダルを得ることが出来ました。そして次の目標は夢であったオリンピックに出場し、メダルを獲ることでした。オリンピック最終予選では皆さんの予想に反し、ぎりぎりのところで切符を獲ることになり、改めて試合で安定した力を出すことの難しさを痛感した試合となりました。普段から高い集中力で正しい努力を積み上げていくこと、仲間を想い生かすことで自分も生かされるということ。忘れてはいけない大切なことを改めて実感し、迎えたロンドンオリンピックでした。大会では想いを胸に、たくさんの方々に支えられて戦い抜き、念願であった28年ぶりの銅メダルを獲得することが出来ました。本当に得がたい貴重な経験をさせていただきました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、今度はもう一つの夢である岡山シ

ーガルズのV・プレミアリーグ優勝を目指して頑張ります。今後とも温かいご声援よろしくお願いいたします。

岡山シーガルズバレーボールチーム
山口 舞



マルセン文化大賞

デザイン・水戸岡 鋭治


 マルセン文化大賞
 受賞にあたって

マルセン文化大賞をいただきありがたく深く感謝しています。望外の榮譽です。

私は成人する前から岡山の外で暮らしはじめ、ここ25年間のおもな仕事は九州で続けられています。九州では「鉄道」という未知のジャンルを与えられ育てられ鍛えられ、私のキャリアの支柱を形づくることができました。

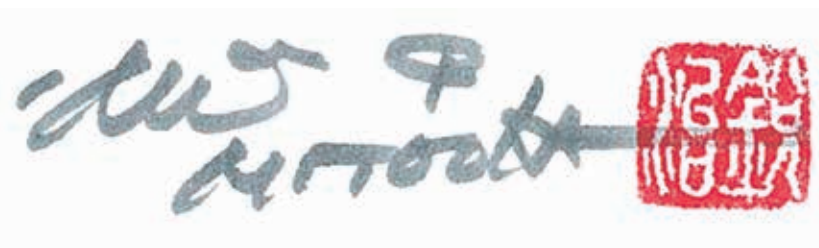
奇しくもJR九州が初めて手がける寝台列車「ななつ星」を完成させたその年に、岡山の文化財団からこのような賞をいただくことは、私にふるさととの深いつながりを思い起こさせました。

子供の頃の私を包み込んでくれたゆたかな自然とゆるやかに流れる時間、つつましくあたたかい団欒ときびしいけれどどこかのどかな学校生活など、こんにち私が列車の旅に盛り込もうとしているさまざまな価値のほとんどが、ふるさと岡山で胚胎し、岡山を揺籃に理想的なイメージとして私の心の中に定着していたものだからです。

デザインはきわめて私的な趣味の領域の話にとどまらず、すぐれて公的な社会インフラのひとつといっても過言ではないほど、近年その仕事の重さが認識されてきています。

先人の努力のおかげで享受することが可能になった恩恵を、私たち現在のデザイナーはどう社会に還元すべきか。これから先の、そう長くもない年月のなかでできることは何か以前から私は「デザインの底上げをしたい」と広言し、「笑顔が生まれるデザイン」というお茶の間レベルの志を掲げてきました。必ずしも先端的でなくても、ひとりでも多くの人に安心して受け入れられる一段上の心地よさ、美しさを実感してもらいたい。

そうした地に足の着いた試みをいつかふるさとの地でも実現できればと思います。



写真：筒井 義昭氏 撮影

マルセン特別賞

染織・佐藤 常子


 一すじの白い糸に
 導かれて

この度は思いもかけず鋭あるマルセン特別賞を頂き、厚く御礼申し上げます。

この賞は、私一個人の物でなく、染織工芸を志す多くの方々への励ましの賞でもあると思います、併せて深く感謝いたします。

草木の持つ色素と繭の糸に移し、機に掛けて布を織る—私の仕事です。一すじの白い糸からキモノを形づくるまで、染めと織りの工程を繰返し、作品をつくり続けて40余年の歳月が流れました。

何故着物をと問われます。幼い日、納屋で見つけた古い機道具の手ざわり、匂い。五感での幼児体験が記憶の底にあって、ある時、鮮やかに甦ってきたのです。家事育児との両輪ながら、まっしぐら走りつづけた織物の道、それはいにしえより伝えられ、受け継がれてきた伝統工芸への道程でした。

植物で染めた色糸を組合わせて経糸をたて、緯糸をくぐらせながら織り上げる私の縞、染織はキモノという形態の中に込めた私の心象風景といえるかもしれません。

ふるさと岡山の豊かな自然、その恵みに支えられて日々染色をつづける私ですが、次の世代に伝えたいことが沢山あり、それらを手渡すことがこれからの私の役目でもありましよう。

作品を創る姿勢、心のあり方、美を見分ける力、それらは作品づくりの基となり、技術、手法と合致して、確かな将来へとつながっていくと思うのです。

私自身もさらに学び、現代により添う縞の作品をこの地より発信したい——自然を慈しみながら——

最後になりましたが、貴財団が岡山県のスポーツ・文化活動の振興発展に、かくも大きく寄与されていることに敬意を表しますと共に、関係各位のご発展をお祈り致します。



マルセン文化賞

彫刻・上田 久利



マルセン文化賞
受賞して

岡山に来て二十年になろうとしています。マルセン文化賞ができて十周年の記念の年、岡山で大きな、だれもが知っているこの賞を受賞でき、望外の喜びでもあります。彫刻制作を続けて四十年、この大きな節目の年にマルセン文化賞を受賞し、ありがたく、また、感慨深いものがあります。受賞理由は今年の「日展会員」賞受賞でした。このような大きな賞はただけとは思っていませんでした。そして、何事も神様の計らいなしにはなしえないと思わされている次第です。

日展会員賞受賞作のタイトル「耳を澄ませて—枇杷の実がうれるころ—」でした。かねてより、美術は自分自身の想いや、身体感覚を表現することと考えてきました。概念的であったり、過去の自己模倣であったりしていましたが、「見えないものを」見ようしたり、聞こえないような小さい声に耳を傾ける」そのような心、思いが表現できればと思い、制作した作品でした。私が関わっている障がい者の造形活動の中で、障がい者の思いに触れる中で感じたことでもありました。感覚や価値観を表すことは中々難しいのですが、追求していきたいと思っています。

耳を澄ますときこえてくるものがある。

心をすますと見えてくるものがある。

触れてみると感じるものがある。

五感を研ぎ澄ますと見えてくる。

昨年還暦を迎えました。新しい歩みを始めたいと思っています。輝いて制作できる時間がどれだけあるかわかりませんが、「これから二十年いかにビビットに輝いて生きるか」が課題となって成っています。与えられた人生の喜びや、感動を素直に作品に表わすことができたと思っています。



マルセン文化賞

岡山バッハカンタータ協会代表・山崎 泰弘



マルセン文化賞
受賞して

2013年度マルセン文化賞、誠に感謝申し上げます。

1985年小澤征爾バッハ「ロ短調ミサ曲」(主催:くらしきコンサート)の演奏会をきっかけに、1987年バッハカンタータ演奏を目的に結成。指揮者に日本を代表するバッハのスペシャリストである佐々木正利氏を迎えて現在に至る。

1993年よりヘルムート・ヴァイシャーマン指揮バッハザリステンと「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ曲」「クリスマスオラトリオ」を岡山、東京で共演し、いずれもライブCDを発売。2007年ペーター・シュライヤー指揮アンサンブル金沢と「ヨハネ受難曲」を共演。2010年にはヘルムート・リリング指揮「ロ短調ミサ曲」を岡山、東京で共演する等、世界に冠たるバッハ指揮者より信頼を得て高い評価を獲得。地方都市岡山を本拠地とする芸術性の高い合唱団として活躍。

また、度々渡欧して演奏活動を行う中、特に2011年5月、バッハのふる里ドイツ・ラインプツィヒ「聖トーマス教会」での演奏会は、東日本大震災復興支援のためにトーマス教会が主催。当協会は図らずも日本を代表して復活の祈りとご支援への感謝をこめてバッハの墓前で献奏が許された。

2000年岡山芸術文化賞、2007年福武伝統文化奨励賞、日教弘奨励賞を受賞



マルセン文化賞

美術テキスタイル・草間 喆雄



マルセン文化賞
受賞を機に

この度はマルセン文化賞を頂き誠にありがとうございました。

私は1960年代ヨーロッパへ、米国を中心に発生した新しいファイバーアート/繊維造形ムーブメントに興味を持ちました。それを学ぶべく私は米国の大学院に入り、卒業後は米国、日本の大学で教鞭をとりながら制作を続けて参りました。

この十数年海外での発表が続き、今回の文化賞の対象となった理由も中国南通市で開催された「第7回国際ファイバーアートビエンナーレ展」において銀賞受賞でありました。

また国内外の美術館あるいはギャラリー空間での展示はもちろんのこと、建築空間、特に公共空間での作品展示に興味を持って活動を行っています。公共空間での作品は美術館あるいはギャラリー空間のような、閉ざされた空間に展示する作品と違い、不特定多数の人々の目に触れる機会に恵まれている。また多くの人々が多く集まり、通過する空間でもあるため、空間の形態、スケール、構造体の素材も美術館等のそれとはおのずから大きく異なっていると思います。このような空間において、繊維素材を用いての作品展開を試みています。

アートメディアとしてのファイバーアートの歴史は非常に浅いけれども、現代の建築空間におけるテキスタイルの進出はめざましく、可能性はとてつもなく大きいと信じている。

この度のマルセン文化賞受賞を機に、前にもまして日本初のファイバーアートの素晴らしさを海外に発信していくつもりであります。



マルセン文化賞

鴻八幡宮祭りばやし保存会 会長・洲脇 康雄



マルセン文化賞
受賞にあたって

この度は平成25年度マルセン文化賞を賜り、誠に厚く御礼申し上げます。

私どもは先人より約200年来横笛1管、指揮者に引き継がれてきたこの祭囃子(しゃぎり)は7曲(だんぎれ囃子・上りは囃子・祇菌囃子・神楽囃子・おひやり囃子・下がり囃子・信楽囃子(替手の兵庫囃子)あり、平成9年に岡山県重要無形民俗文化財に指定された荣誉ある囃子です。未長く後世に引き継ぐべく日夜努力しております。昔はこの囃子が秘伝とされ一部地区だけに受け継がれていました。各町内で曲がバラバラに伝わり、その上後継者難であったので、このままでは「しゃぎり」が途絶えると危惧、関係者が立ち上がり昭和42年に「鴻八幡宮祭りばやし保存会」を設立しました。曲が十分出来ないところには積極的に保存会が直接指導に出向きました。この囃子は大太鼓、締太鼓、鼓・鐘(半鐘の中を打つ)の4種類の楽器があり、男子小学生(今は女子も可能)が担当ですが少子化・核家族化による子供の減少に苦労しているのが現状です。中でも鼓・締太鼓は小学生には難しく苦悩していた折、前会長の親戚で鼓の宗家(田中伝佐衛門・人間国宝)の後継者が倉敷に歌舞伎の演奏に来られた際、鼓・締太鼓を直伝で指導を受け、ビデオ取りも許可され正式な打ち方が可能になり、子供に指導も出来るようになりました。大人は横笛ですが特に難しく、尺八と一緒にマスターするには約10年は掛かると言われていましたが、幸い今はビデオなど使った指導も可能で短期間になりました。

又約200年前の古笛が残っているので今も昔のとおりに手作りで作成していますが規格の太さの女竹・びんつけ油など調達に苦労しています。尚今年第62回伊勢神宮式年遷宮に県代表で奉納したのをはじめ色々な行事のイベントに参加しています。又毎年9月には発表会(今年32回)を開催し技術の向上に努めています。

今後ともこの賞に恥じないよう保存会員一同より一層精進すべく決意を新たにしています。



マルセン文化賞

写真家・難波 由城雄

マルセン文化賞
受賞にあたって

この度は、写真家としてマルセン文化賞をいただき誠にありがとうございます。

小生の写真の原点は、40数年前に出会ったクモの母性愛である。普通クモと言えば、毛嫌いする人がほとんどである。小生もあまり好きではなかったが、ある秋の真夜中ジョロウグモの産卵を偶然観察した。母グモは一心不乱で産卵し、飲まず食わずで一週間卵を守り、冷たい雨が降る朝命尽きた。その姿を見たとき、何とも言葉では言い表せない感動が体中を走ったのを今でも覚えている。

長女が生まれて10ヶ月の頃であった。

この時の感動が全ての写真の原点となった。畏敬の念を持ち、10数年の歳月を費やし、ジョロウグモの一生を撮り終えた。後に偕成社より出版していただき、後日インドネシア版、韓国版として海外でも出版された。

次に手掛けたのが、後楽園である。まずコンセプト、アートとして誰も居ない、誰も見たことのない、誰も撮ったことのない後楽園、カメラサイズはパノラマである。そして移ろいゆく四季に妙味を感じ大地の鼓動、息吹、幽玄を写し込んだ。

いつしか25年が過ぎた。

後楽園の個展及びコラボレーションをイギリスのヨーク、オランダでは、チルブルグとフェンローで開催した。大名庭園の奥深さに感嘆の声が上がった。

今は銀塩写真からデジタル写真へと変わりプリント技術も随分進歩し、何にでも印刷できる時代になった。

次のテーマは、この手法を用いて人生集大成として全世界に日本が誇る大名庭園「岡山後楽園」を発信することである。

この受賞が自信となって、必ずや実現できるものと信じて疑わない。

最後になりましたが、今回の受賞に当たりご尽力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。



梅雨どき



輪廻(りんね)

竜のすむ聖地 龍ノ口山
著者 なんばみちこ・難波由城雄
発行者

第3章 イベントの開催(主催・協賛等)

1 スポーツ

●プロバスケットボール試合
「高松ファイブアローズ対島根スサノオマジック」(共催)

- 平成25年10月27日(日)
開催：備前市総合運動公園体育館
- 財団PRESENTS 少年バスケットボール交流会 岡山・島根の小学生の部A：B、同中学生の部
- 参加者：28名



2 文化

●創立10周年記念
「表彰者色紙展」「自然と遊ぶ・写真展」(主催)

- 第1回～第9回までのスポーツ・文化大賞等受賞者の揮毫色紙及び
監事 信朝 寛氏提供の写真展(全紙)
期間：平成25年8月13日(火)～18日(日) 会場：岡山天神山文化プラザ 1階小展示室
作品数：色紙60点 写真64点 入場者746名 アンケート：回答666通



●(公社)岡山県文化連盟・文化講演会「文化のつどい」(共催)

- 平成25年7月20日(土) 天神山文化プラザホール
講演：「美作国建国1300年 ～津山洋学・知は海より来る～」
講師：元吉備国際大学教授 臼井 洋輔氏
津山洋学資料館前館長 下山 純正氏
- 平成25年9月19日(木) 天神山文化プラザホール
講演：「日本から始まった柔道文化」
講師：IPU環太平洋大学 教授(柔道家・医学博士) 古賀 稔彦氏
聞き手：フリーアナウンサー 松嶋 信之氏
演奏：松本 加代子トリオ

●成通グループ・(公財)マルセンスポーツ文化振興財団PRESENTS
東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室

- 平成26年3月2日 倉敷マスカット球場
参加者：中学生96名 講師：楽天ゴールデンイーグルスジュニアコーチ



第4章 広報啓発育成事業

競技スポーツ等及び芸術性の高い音楽・演劇等の鑑賞の機会の提供を通じてスポーツ・文化の振興発展に寄与する。

1 啓発育成事業

ア チケットプレゼント

① スポーツ関係

- 山陽新聞レディースカップ チケットプレゼント
平成25年9月21日(土)～22日(日) 会場：東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ
招待者：145名 応募者：258通
- プロバスケットボール試合「高松ファイブアローズ対島根スサノオマジック」
チケットプレゼント
平成25年10月27日(日) 会場：備前市総合運動公園体育館
招待者：20名 応募者：43通
- プロ野球オープン戦（東北楽天イーグルス主催） チケットプレゼント
平成26年3月4日・5日：対ロッテ戦、3月7日：対西武戦、3月8日・9日：対中日戦
会場：倉敷マスカットスタジアム
種別：岡山・I C O C Aシリーズ Bフリーパス
招待者：50名 応募者：1,203通

② 文化関係

- 大野雄二&ルパンティック・ファイブルパンティック・ジャズナイト チケットプレゼント
平成25年5月17日(金) 会場：岡山シンフォニーホール
招待：25組(50名) 応募者：265通
- 「卑弥呼は近江か出雲か吉備か」書籍プレゼント
平成25年9月28日締め切り 贈呈数：28冊 応募者：179通
- みんなで学ぶ「ふるさと美作のあゆみ」書籍プレゼント
平成26年2月8日締め切り 贈呈数：10冊 応募者：71通
- 「レオナール・ブジタとパリ 1913-1931」展
平成26年2月21日(金)～4月6日(日) 開催：岡山県立美術館
招待：150組(300名) 応募者：336通

イ ホームページを通じての広報

ウ 機関紙「マルセン」10号の発刊

エ ラジオ番組への出演

- RSKラジオ
パーソナリティ：メイン 奥富 亮子、サブ 竹内 大樹
「おかやま朝まるステーション昼またぎ」(12：20～30 放送内)
期間：平成25年10月28日～12月17日 毎週月・火曜日：15回
出演者：平成25年度 助成団体対象者全員
スポーツ関係：13団体 文化関係：15団体

2 協賛・後援事業

ア スポーツ関係

- 厚生労働大臣杯争奪 第63回全日本実業柔道団体対抗大会(協賛)
平成25年6月15日(土)・16日(日) 会場：岡山県体育館 桃太郎アリーナ
- 第36回岡山県道場少年剣道大会 (後援)
平成25年6月22日(土) 会場：倉敷市玉島の森体育館
- 第32回山陽女子ロードレース大会(協賛)
平成25年12月23日(月・祝)開催 岡山市内



イ 文化関係

- 第9回沙美アートフェスト(協賛)
平成25年5月11日(土)開催 倉敷市沙美海岸 (50作品)



- マリンバ・リサイタル/マスタークラス(協賛)
平成25年7月17日(水) 会場：ルネスホール
- 如月 水墨画展(後援)
平成25年10月1日(火)～6日(日) 会場：さん太ギャラリー
- 倉魂! 高校生コミック・イラストコンクール2013(協賛)
平成25年10月6日(日)～27日(日) 天満屋倉敷店6階 100点展示 応募(357点)

ホットコーナー

バレーボール女子の岡山シーガルズ・宮下 遥

東京五輪期待の大型セッター

「日本のバレーを変える選手」―。取材でも 責任感あふれる受け答えが印象的だった

1年ほど前まで、Vリーガーと高校生の二足のわらじを履いていただけのことはある。あとけない19歳のイメージとは裏腹に、「目力」がとても印象的な女性だ。父親ぐらいの年の記者の質問にもじっくり耳を傾け、言葉を選ぶ。コートの中と同じように決して物おじしない。

バレーボールV・プレミアリーグ女子の岡山シーガルズでセッターを務める宮下遥選手。昨年8月のワールドグランプリで日本代表の司令塔としてブレイク。いやが応でも、2020年東京五輪での活躍を思い描いてしまう。

セッターでは大型の178センチ。相手を翻弄(ほんろう)する強気で多彩なトスワーク、高さを生かしたブロックは一級品だ。引退した竹下佳江さん(元JT)の後継に期待され、「日本のバレーを変える選手」と注目されている。

自他共に認める「負けず嫌い」。思ったことは先輩でもはっきり言う。「たくさんの期待はうれしいことですが、一番うまいセッターでないことは自分でも分かっている。例えば、セッターとして仲間の動きが読め

ると、相手を読める。まだ、こういう感覚はないけど、究極の目標ですね」。責任感が強いのだろう。向上心あふれる言葉ばかりが口をつく。

三重県桑名市出身。バレーは小学1年生から始めた。強制されたものでなく「母がバレーをやっている姿を見て、いいなと」。6年生までエースアタッカーだったが、転機となる出会いがあった。シーガルズ監督の河本昭義さん(笠岡商高、大阪体育大)。セッターの経験があり、名門・大阪国際滝井高校の総監督も務める。宮下選手が系列の中学に入学すると、セッターとしての非凡な才能を見抜き直々に指導。史上最年少(15歳2カ月)のVリーグデビューが実現した。

上背のわりにスピードがある身体能力もさることながら、河本監督は精神力の強さを指摘する。例えば、劣勢の試合で「おまえのトスワークが悪いから駄目なんだ」と注意すると、普通、チーム最年少なら動揺する。「しかし遥はゲーム中、気持ちの中で消化して修正できるんですよ」。さらに「1試合勝ちきるためのセッターのペース配分はトータルで日本一」と続ける。

東京五輪を25歳で迎える。チームメートにロンドン五輪銅メダリストの山口舞選手がいることも刺激になっているはずで「日本開催のオリンピックは一生に一度あるかどうか。チャンスがあれば」と夢を膨らませる。ただ、少女の頃から勝負の世界に身を置くだけに「五輪のことより、どうすれば勝てるのか目の前のことを考えている」と足元を見詰め直すことを忘れない。根底には共に歩むチームへの愛着がにじむ。

「シーガルズは日々成長しており、課題を修正しながら、一人一人がお互いのことを生かし合っているという思いはどのチームよりも強い。監督からはピンチの時こそ、生きた目をするように言われているんです。自分がチームを支えていくんだという気持ちで…」

進化の秘訣(ひけつ)はやはり「目力」にありそうだ。

(本文、写真ともに山陽新聞社提供)



世界選手権アジア最終予選のタイ戦で、笑顔がはじける宮下選手(中央)＝昨年9月、愛知県小牧市



Haruka Miyashita



河本昭義監督との出会いがバレーボール人生の転機となった
＝赤磐市・山陽ふれあい公園体育館

MEMO

ストレス解消法は休日にたくさん寝ることですが、昨年末は久々の映画館で「謝罪の王様」(阿部サダヲ主演)を楽しみました。他にも、Vリーグの遠征中、その土地の食べ物に出会うことができれば、すごくうれしいですね。

今、凝っているものは、グレープフルーツなど柑橘(かんきつ)類の匂いで、ボディージュンパーにも使っています。尊敬する人は複数いるので、誰とは言えません。結婚は30歳ぐらいまでにできればいいですね。



現代かな美の頂点「まだ 道半ば。まだまだ未熟」

2013年度の岡山文化界をもっとものにぎわせたのは、総社市在住の書家・高木聖鶴氏(90)だろう。俳優の高倉健、日本文学・比較文学の中西進、医化学・分子免疫学の本庶佑、電子工学の岩崎俊一の4氏と、文化勲章に輝いた。岡山県出身者では8人目、在住者では初という快挙だ。

高木氏はわが国を代表するかな書家。古筆と呼ばれる平安時代の筆跡を理想として学ぶ一方、漢字の古典にも精通するなど、並外れた研さんを経て書の精髓を体得。繊細優美さと鋭さを併せ持ち、気品と風格をたたえた独自の書風を確立した。日展や岡山県書道連盟などの要職を歴任し、優れた後進も育成。書道界の発展に多大な貢献を果たしたことが評価された結果だ。

書一筋に70余年。旧制高梁中(現高梁高)を病気で中退するという挫折の中で「独学できる生涯学習を」と書を始めた。戦後は、かな書の大家内田鶴雲さん(1978年没、津山市出身)に入門。日展を主舞台に活躍し、日展・内閣総理大臣賞、日本芸術院賞、文化功労者一と、現代書壇を駆け上がっていった。

「人の3倍。倍では人並み」というけた外れの努力で知られる。独学のころは「1日10時間」。戦後は家業に携わりながらも「夜中まで7、8時間」。かな、漢



「書の道を生涯究めたい」と話す高木さん

Seikaku Takagi

字を問わず没頭し、今も体力の許す限り筆を執り、先人の筆跡をひもとく。かな書家にとって最高の名品とされる平安時代の古筆をはじめ、幅広い古典研究に自らの美意識を加えた書は「闊達自在の筆の運びと風格の高さは“平成の古筆”」と島谷弘幸東京国立博物館副館長(古筆学、高梁市出身)が評するように、現代かな美の一つの極点といえそう。

その書を育んだのは、尾上柴舟氏(1957年没)、内田鶴雲氏(78年没)ら書道史に足跡を刻むかな書家を多く輩出してきた岡山県書壇と、豊かな自然に恵まれた岡山の風土だ。学校が終わると家にかばんを放り出して外へ遊びに出た。近くに流れる高梁川で、魚体のうねりや一瞬の動きに見入り、獲物を探すトビやヘビを観察した。

高木氏が本格的に書を志した戦後、日展への書部門参入を機に、かな書は巻物などに小さな字で書く卓上芸術から、展覧会場で映える額や軸などの壁面芸術に転換した。そこで力強い漢字の筆法を取り入れた「大字かな運動」をけん引したのが、師内田氏だった。

薫陶を受けた高木氏は平安期のかなの繊細な美「あえか」を理想とする一方、王羲之ら漢字の古典も徹底的に研究し、両極の美を一点に融合させた書風を確立。日々接する古里の自然の情感を取り入れた生命感あふれる独自の線で、書壇に清新な風を吹き込んだ。

後進の指導も熱心だ。全国的な書団体・朝陽書道会を率い、日展参事など中央書壇の要職を歴任。温和な人柄から地元では会派やジャンルを超えて慕われ、県書道連盟は600人を超える大所帯に。県展や県児童生徒新春競書大会の審査も長年務め、書ファンのすそ野拡大にも尽力する。

文化勲章という荣誉にも、「まだ道半ば。まだまだ未熟」、「至高の美に手が届くまで、勉強を重ねて境地を高めたい。だって、私の書は“生涯学習”だから」と、気を引き締めている。



文化勲章受章の喜びを語る高木さん

関連記事

岡山県出身者では8人目の文化勲章受章となった書家の高木聖鶴氏。過去7人の受章者も、学術、芸術の分野で時代をリードし、後世に名を残す業績を挙げた泰斗がそろそろ。

最初の受章は1946年、戦後初の文化勲章でもあった物理学者仁科芳雄氏(1890～1951年、里庄町出身)。わが国に量子力学、原子核物理学研究をもたらした、ノーベル賞の湯川秀樹氏、朝永振一郎氏らを育てた「日本現代物理学の父」と呼ばれる。

2人目の受章は50年。明治、大正、昭和の3時代を通して文壇で活躍した小説、評論などの「生涯現役作家」正宗白鳥氏(1879～1962年、備前市出身)だ。社会生活の苦悩を徹底したリアリズムで描く「自然主義文学」の代表。

3人目から美術分野が続く。トップバッターは彫刻家平櫛田中氏(1872～1979年、井原市出身)。師と仰いだ近代日本美術の指導者・岡倉天心の導きで、明治以降、衰退傾向にあった日本伝統の木彫に西洋彫塑の写実を融合。近代木彫の扉を開いた巨匠だ。

76年受章の日本画家小野竹喬氏(1889～1979年、笠岡市出身)も、14歳で京都画壇の重鎮竹内栖鳳に師事するが、セザンヌに傾倒。笠岡・神島の風景を洋画風の鮮やかな色彩で描いた「島二作」で文展(現日展)特選を受け、日本画の革新を目指して「国画創作協会」を設立。大正、昭和初

期の画壇に新風を吹き込んだ。

竹喬氏にあこがれ、当初学んだ洋画から日本画に転向したのが、87年受章の倉敷市ゆかりの池田遙邨氏(1895～1988年)だ。やはり竹内栖鳳に師事し、京都画壇で活躍。江戸の浮世絵師歌川広重にならい、東海道を歩いて写生するなど、自然と旅を愛した画家として知られる。晩年は漂泊の俳人種田山頭火の句境の絵画化を試みた「山頭火シリーズ」に情熱を傾け、詩画一体の境地を切り開いた。

最高裁判事で、95年に受章した団藤重光氏(1913～2012年)は高梁市出身。旧制第六高等学校(岡山大の前身)から東京帝国大(現東京大)法学部卒。47年に33歳で同大教授となり、新憲法下の立法や法改正に参画。現行の刑事訴訟法の生みの親でもある。

2011年の受章の席で「社会のニーズではなく、自分で課した目的に応じた学問を貫いた」とあいさつし、学問の独自性への矜持を披歴したのは、東京大名誉教授の政治学者三谷太一郎氏(1936年～、岡山市出身)。明治末から大正期にかけての政党政治確立の過程を研究。2002年には第1期日韓歴史共同研究委員会の日本側座長も務めた。

このほか、岡山県ゆかりの受章者では、美術評論家で大原美術館長の高階秀爾氏(1932年～)らがいる。

(協力山陽新聞社)

(II)収益事業

「事務代行事業」については、平成25年5月31日付を持って廃止した。

これに伴い、定款変更(平成25年12月6日県認定)を行い、12月20日登記を完了。

(III)財団の活動

法人管理

1 会議等

●評議員会

定 時 評 議 員 会 平成25年 6月26日(水)
臨 時 評 議 員 会 平成26年 3月28日(金)

●理事会

第1回定時理事会 平成25年 6月14日(金)
書面による理事会 平成25年10月18日(金)
書面による理事会 平成26年 2月18日(火)
第2回定時理事会 平成26年 3月28日(金)

●選考委員会

表彰・協賛・後援 平成25年 5月28日(火)
助成・協賛・後援 平成26年 2月24日(月)

2 ホームページの管理

3 機関誌「マルセン」10号の発刊



4 ラジオ番組への出演

- RSKラジオ パーソナリティ:メイン 奥富 亮子、サブ 竹内 大樹
- 「おかやま朝まるステーション昼またぎ」(12:20 ~ 30 放送内)
- 期 間:平成25年10月28日~ 12月17日 毎週月・火曜日:全15回
- 出演者:平成25年度 助成団体対象者全員
スポーツ関係:13団体 文化関係:15団体

活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 1 スポーツ①

第 9号様式

広報用実績のまとめ

H25年度

団体名	代表者	記載者
FC Viparte	奥 俊幸	藤井 理博
所在地(市区町村名のみ) 津山市		
活動目的	日本サッカー協会(JFA)の指導指針に則り「Players First」の精神を尊重しキッズ・ジュニア・ジュニア女子・ジュニアユースの全てのカテゴリーで選手一人ひとりの育成を第一に考えサッカーの楽しさを指導することを目的とします。	
団体の紹介	FC Viparteとして2009年4月設立 代表1名、副代表2名、事務局1名、委員2名、コーチ20名、マネージャー1名 ・キッズ、ワイドキッズ、U-6、U-7、U-8(37名) ・ジュニア中学U-9(18名)、U-10(19名) ・ジュニア高学年U-11(23名)、U-12(24名) ・ジュニア女子部U-7～U-12(20名) ・ジュニアユースU-13(15名)、U-14(20名)、U-15(19名) 以上スタッフ関係者27名、会員195名で構成されています。	
助成を受けての活動内容	助成を受けて優勝、準優勝、3位のメダル又大会運営で使用するラインカーの購入に運用させて頂きました。 今迄は大会参加費だけではクラブ負担が大きく会員の会費だけで運営している私達にとって父母の会の皆様にも十分に理解を得るために必要不可欠な事例だったと感じています。 活動報告書明細にも記載させて頂いていますが悪天候の中での大会を通じて選手たちの心の中に色々な人たちに支えられて自分たちが精一杯にピッチ上でプレーが出来ている事を学んできたと思います。 今後も助け合いと思いやり又スポーツに対する情熱を伝えて行きます。	
助成を受けての成果	助成を受けてクラブ持ちの負担金額が経費負担の約8.8%とし減額されました。 クラブ内でも節約できるところは節約しより今回の大会では前年比経費を33%カットし健全なクラブ活動が運営出来たと分析しています。	
今後の活動の課題点	私たちのクラブは運営費を会員の会費だけで賄っており、県内外の遠征も多くなり中には選手として遠征に行きたくても家庭の事情等で行けない子供達も出てきます。しかしクラブとしては前向きに頑張っている子供達には平等に育てて頂きたいしその為には今後益々広報活動の一環としても助成金等の会費以外の収入を増やすことが必要と考えています。	
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)		

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 ① スポーツ②

第 9号様式	
広報用実績のまとめ	
H25年度	
団体名	日置當流 徳山弓道場 代表者 徳山 英則 記載者 徳山 陽介
所在地(市区町村名のみ)	岡山市北区弓之町13-7
活動目的	江戸時代より伝わる岡山藩の弓術「日置當流」が岡山の伝統弓術であることを地域の人々に知ってもらうとともに、記念射会を通じて次代への流派の継承と、射法などの記録・保存につなげること。
団体の紹介	「日置當流 徳山弓道場」は、江戸時代から続く弓術の道場である。戦国時代に興った弓の流派で、岡山藩公式の弓術「日置當流(へきとうりゅう)」を代々継承する全国でも数少ない弓道場だ。道場を経営する徳山家は、岡山藩の弓術師範を務めていた家柄で、藩士への指導や藩主の御前で弓の披露をしてきた。現在でも日置當流の射術を指導しており、幅広い世代の門下生が通っている。
助成を受けての活動内容	「徳山弓道場 380 周年記念射会」を 11 月 23 日、岡山市北区吉備津の岡山市吉備津弓道場で開催した。午前の部では、徳山弓道場に伝わる日置當流(へきとうりゅう)の 7 つの体配(弓矢を使った儀礼)を披露。そのうち体配「鳴弦(めいげん)・四方詰め」「墓目(ひきめ)」は 50 年ぶりに行われ、徳山弓道場に伝わる全ての体配を半世紀ぶりに一挙披露した。また午後の部では、県内各弓道会から招待した弓道家と同道場の門下生が参加した競技会を実施し、男女とも白熱した試合を展開し、男女5位までを表彰した。2013 年が徳山家の転藩 380 周年にあたることから、2012 年 11 月ごろに実行委員会を立ち上げ、運営計画や準備などを協議してきた。記念射会では体配演武がメインになるため、より完成度の高いものを披露するため、毎月 1 ～ 2 回研修会を実施し、体配の研究と射術の修練を重ねた。また本番の会場を使い、リハーサルを計 4 回実施。全体的な流れの確認や演武者同士の調和などを図った。記念射会を PR するため、チラシを 1,000 部制作し、門下生伝手に各所へ配布。当道場の歴史と体配についてまとめたパンフレットも 300 部配布し、当日の参加者、一般観覧者に配った。
助成を受けての成果	競技には弓道家 104 人が参加。一般観覧者と合わせて、約 150 人が記念射会に足を運んでくださった。地域の人だけでなく、日頃から弓道をしている人でも、当道場や日置當流のことをあまり知らなかったため、この機会に多くの人たちに知ってもらえたことは大きい。また記念射会後に見学や入門希望の問い合わせがあった。また門下生が一丸となって取り組めたことで連帯感が生まれ、日置當流の更なる修練や継承への意欲も高くなった。
今後の活動の課題点	今回の記念射会は徳山弓道場としても 30 年ぶりの大型行事だったが、個人経営の道場のため、頻繁に大規模な射会やイベントは開催できない。今回の記念射会を通じて、広報が大切であると同時に、当道場ではそれが不十分であったことを痛感した。今後も流派を伝えていくためには、地域の理解が必要であり、広報活動が今後の課題となると思われる。
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	ホームページ http://www.seishakai.mimoza.jp/ E-mailアドレス heki10ryu@gmail.com
※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。	



活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 ② 文化①

第 9号様式	
広報用実績のまとめ	
H25年度	
団体名	岡山県刻字協会 代表者 会長 吉崎 努 記載者 高田 佳奈
所在地(市区町村名のみ)	岡山市北区
活動目的	岡山ではまだまだ一般に知られていない書道の一分野「刻字」の展示会を実施することで刻字を広く周知し、県内における刻字文化の振興と発展を図る。
団体の紹介	平成22年に岡山市で開催された「第25回国民文化祭・おかやま2010～美術展『書』」への刻字作品の出品を契機に、県内では余り馴染みのなかった刻字文化を根付かせようと、奈良県在住で日本刻字協会理事、毎日書道展審査会員の吉崎努を講師に迎え、平成21年より開催した刻字ワークショップの受講者が母体となって発足。毎月2回(第1・3水曜日)講師の指導を仰ぎながら、刻字の基礎となる古代文字(主に小篆)の成り立ちを学び、練成会を行うなど研鑽を積んで、初夏の毎日書道展や冬季の日本刻字協会展に向けた作品制作に取り組んでいる。また、毎年11月頃には日頃の成果発表の場として岡山県刻字協会展を開催している。
助成を受けての活動内容	日時:平成25年11月18日(火)～11月24日(日) 9:00～17:00(最終日16:00まで) 場所:岡山県天神山文化プラザ第1展示室(大室) 内容:岡山県刻字協会会員の作品 59点、大阪春日会会員の作品 20点、九州千歳会会員の作品 12点の計91点を展示。大阪、九州で活動する刻字団体との交流を深めるとともに、西日本最大級の刻字展となった。 ※展示作品については、別添作品集参照。 会期中11月19日(火)には当協会会長で毎日書道展審査会委員、日本刻字協会理事の吉崎 努による刻字の制作実演が行われ、マスコミ等多くの関心を集めた。 また、20日(水)には刻字体験教室を開催し、28名の参加者がハガキサイズの作品に挑戦した(約2時間程度で完成)。 ※制作実演風景、体験教室の様子については別添写真参照。 来場者数:約700名
助成を受けての成果	今回のように岡山・大阪・九州で活動する刻字団体が、公募展以外で一同に会して行う刻字の展示会は他に例がなく、西日本最大級の刻字展を開催できたことは非常に大きい成果である。天神山文化プラザという会場の特性から、書道分野のみならず、写真、陶芸、造形、染織、版画、彫刻など様々な文化芸術分野の第一線で活躍する諸氏に観覧いただいたことは非常に意義深い。
今後の活動の課題点	刻字協会会員も他の文化芸術分野と同様に高齢化が進んでいる実情があり、新規会員の確保は喫緊の課題である。しかしながら、現在の会員がより深く刻字を理解し、小篆(篆書の一つ)を学んで刻字の道に邁進することが、何よりも重要である。国文祭を契機に根付いた刻字の息吹を絶やさぬよう、より一層の周知と浸透に取り組み、岡山県の文化の振興と発展に寄与したいと考えている。
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	会員随時募集中。 連絡先:岡山県刻字協会事務局((公社)岡山県文化連盟内) TEL:086-234-2626
※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。	



曾田 章楷 「休道他郷多苦辛…」 45×135cm

活動助成事業 広報実績のまとめ 記載例 文化②

第 9号様式

広報用実績のまとめ

H25年度

団体名	あかいわアートラリー実行委員会
代表者	伊 永 和
記載者	伊永 和弘
所在地(市区町村名のみ)	赤磐市
活動目的	赤磐市の魅力を再発見し、現代アートを身近に感じる場を作る。
団体の紹介	2009年 設立、2010年 第1回あかいわART RALLY 開催 2011年 岡山県芸術文化賞受賞 2013年 第2回あかいわART RALLY 開催 廻遊 ― 海から山から ― 企画・協力
助成を受けての活動内容	「あかいわアートART RALLY 2013」 2013年10月12日～10月22日 赤磐市内20か所で開催、全会場 入場者数 21,000人 「人と自然とアートをつなぐ」というテーマで 赤磐の地域の魅力を再発見し、現代アートを 身近に感じる場をつくる。 今回は、赤磐の歴史に重点を置き、国指定史跡の備前国分寺跡 両宮山古墳、熊山遺跡を はじめ、郷土資料館等にアーティストの作品や市民参加の作品を設置した。会期中、コンサ ート、パフォーマンス、ワークショップ、アートによるまちづくり シンポジウム等盛りたくさんの内 容であった。 市民参加の作品は、中学生と制作した「人と自然のシルエット」を赤磐特産館アグリに、親子 参加で制作した「空想の出土品」を山陽郷土資料館に、短歌や俳句の木札を倉懸山の桜並木 に展示した。
助成を受けての成果	古代遺跡と現代アートの対比、そこを巡る人々の出会い、市民の創作意欲の向上、日頃行か ない場所の発見など、このアートプロジェクトで「赤磐再発見の旅」が実現できた。
今後の活動の課題点	実行委員、ボランティアに若い世代の人達を呼び込むこと。
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



オープニングセレモニー



流木ドームでコンサート



DATA ● 資料

事業の記録

1 助成の記録

●第9回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
24.8.27	スポーツ	100万円	24件	10件	970,000円	美作国建国1300年記念事業実行委員会 30万円 合 計 24件 2,370,000円 累 計 195件 23,711,313円
	文 化	100万円	56件	14件	1,400,000円	

●第8回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
23.7.12	スポーツ	100万円	25件	10件	986,000円	合 計 21件 2,011,628円 累 計 171件 21,041,313円
	文 化	100万円	46件	11件	1,025,628円	

●第7回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
22.7.5	スポーツ	100万円	11件	8件	717,020円	第25回国民文化祭おかやま2010 100万円 合 計 22件 2,977,020円 累 計 150件 19,029,685円
	文 化	100万円	43件	13件	1,260,000円	

●第6回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
21.7.27	スポーツ	100万円	19件	10件	959,115円	第25回国民文化祭おかやま2010 100万円 合 計 25件 3,258,115円 累 計 128件 16,052,665円
	文 化	100万円	42件	14件	1,299,000円	

●第5回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
20.7.29	スポーツ	100万円	34件	10件	996,410円	県立総社南高等学校ダンス部保護者会 100万円 合 計 21件 2,996,410円 累 計 103件 12,794,550円
	文 化	100万円	45件	10件	1,000,000円	

●第4回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
19.7.24	スポーツ	100万円	31件	10件	964,500円	合 計 21件 1,994,500円 累 計 82件 9,798,140円
	文 化	100万円	53件	11件	1,030,000円	

●第3回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
18.7.21	スポーツ	100万円	36件	10件	970,000円	合 計 20件 1,962,000円 累 計 61件 7,803,640円
	文 化	100万円	27件	10件	992,000円	

●第2回交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
17.8.3	スポーツ	100万円	34件	10件	988,640円	晴れの国おかやま国体 100万円 合 計 21件 2,988,640円 累 計 41件 5,841,640円
	文 化	100万円	24件	10件	1,000,000円	

●第1回 交付式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	予 算	応募数	助成数	助成額	
16.12.14	スポーツ	100万円	31件	10件	1,000,000円	晴れの国おかやま国体 100万円 合 計 20件 2,853,000円
	文 化	100万円	15件	9件	853,000円	

2 表彰の記録

●第9回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
24.8.27	特別賞		福元 美穂 宮間 あや 小谷 眞三 森川 星葉	サッカー競技 サッカー競技 美術 工芸 美術 書道
			奥村 諭志 勝又 雅弘 田中 太郎	自転車競技 陸上競技の振興 ウェイトリフティング競技
			池上 わかな 作元 朋子 梶木 和敬 桃太郎少年合唱団	美術 洋画 美術 陶芸 音楽 声楽 音楽 合唱

●第8回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
23.7.21	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	小野 陽平 川口 敬二 興譲館高等学校陸上競技部	テニス競技 自転車競技の監督 陸上競技 空手道競技
			永木 伸児 中野 真奈美 藤田 健児	サッカー競技 ボクシング競技
	文 化	大賞	重松 清	文芸 小説
		賞	沢田 虚遊 宮内踊保存会	書道 無形民俗文化財 伝統芸能
	特別賞		天満屋女子陸上競技部	陸上競技

●第7回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
22.7.5	スポーツ	栄誉大賞		スケート競技 フィギュア
		大賞	高橋 大輔 新田 佳浩	スキー競技 クロスカントリー
		賞	井上 正 県立玉野光南高等学校陸上競技部	新体操競技 監督
			皇后杯第28回全国都道府県対抗 女子駅伝岡山県チーム	陸上競技 陸上競技
	文 化	大賞	井手 康人	美術 日本画
		賞	高田神社横野獅子舞保存会 諸星 美喜	無形民俗文化財 伝統芸能 美術 日本画

●第6回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
21.7.27	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	岡山県作陽高等学校ゴルフ部 木村 禎宏 山陽女子高等学校 体操部	ゴルフ競技 車いすテニス競技 体操競技
			平林金属男子ソフトボールクラブ	ソフトボール競技
	文 化	大賞	高原 洋一	美術 洋画 版画
		賞	大島の傘踊り保存会 片山 康之	無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

●第5回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
20.7.29	スポーツ	大賞	天満屋女子陸上競技部	陸上競技
		賞	県立新見高等学校ソフトボール部 県立 新見 高 等学校軟式野球部 福元 美穂 宮間 あや	ソフトボール競技 軟式野球競技 サッカー競技 GK サッカー競技 MF
			該当者なし	
	文 化	賞	井手 康人 小川 尊一 神代郷土民謡保存会 津山市立北陵中学校吹奏楽部 明誠学院高等学校書道部	美術 日本画 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 吹奏楽 書道

事業の記録

●第4回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
19.7.24	スポーツ	大賞	該当者なし	
		賞	麻生 薫 岡山県作陽高等学校サッカー部 岡山湯郷Belle	ハンドボール競技 監督 サッカー競技 サッカー競技
			長田 京大 牧野 吉伸	新体操競技 監督
				ウエイトリフティング競技 監督 漆芸
	文 化	大賞	山口 松太	
		賞	多胡 昭彦 田丸 稔 宮尾 昌宏	天文学 美術 彫刻 工芸 陶芸

●第3回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
18.7.21	スポーツ	大賞	高橋 大輔	スケート競技フィギュア
		賞	楢村 正明 古川 興幸 森政 芳寿	ソフトテニス競技 監督 レスリング競技 監督 陸上競技 監督
	文 化	大賞	あさの あつこ	文芸 児童文学
		賞	川島 基 難波 滋 福石神楽団	音楽 ピアニスト 美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能
	特別賞		岡山県剣道連盟 岡山県山岳連盟 岡山シーガルズ 関西高等学校ボート部	剣道競技 山岳競技 バレーボール競技 ボート競技

●第2回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
17.8 .3	スポーツ	大賞	水鳥 寿思 石本 直樹	体操競技 ベンチプレス競技
		賞	諸見里 しのぶ 横山 純子	ゴルフ競技 陸上競技 監督
	文 化	大賞	小川 洋子	文芸 小説
		賞	石田 宗之 はやし田植え保存会 濱坂 渉	美術 洋画 無形民俗文化財 伝統芸能 美術 彫刻

●第1回 贈呈式(ホテルグランヴィア岡山)

月 日	区 分	賞	氏 名	種 別
16.12.14	スポーツ	大賞	武富 豊	陸上競技 監督
		賞	土井 美智恵 藤原 佳市 柳井 清志	水泳競技(マスターズ) 体操競技 監督 ソフトボール競技 監督
	文 化	大賞	高橋 秀	現代美術
		賞	粟井春日歌舞伎保存会 岡山フィルハーモニック管弦楽団 松本 和将	無形民俗文化財 伝統芸能 音楽 管弦楽 音楽 ピアニスト

3 イベントの記録(協賛を含む)

年度	区 分	イ ベ ント 名	実 施 日	応募数	決定数	金 額
24	スポーツ	山陽レディースカップ チケットプレゼント	24.9.15 ～ 16	153 通	120 枚	20 万円
		第 2 回航空フェア 2012 (協賛) フライトシュミレーターによる少年航空教室	24.11.11	106	106 名	42 万円
		成通グループ・(株)マルセンススポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室 (マスカット球場)	24.11.11	29 チーム	200 名	—
		「第 31 回山陽女子ロードレース大会」協賛 岡山市内	24.12.23	—	—	105 万円
		女子バレーボール V・プレミアリーグ戦 チケットプレゼント	25.2.9、10 3.2 ～ 3	515	80 名	
		成通グループ・(株)マルセンススポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室 (マスカット球場)	25.3.3	4 チーム	95 名	—
	文 化	「第 8 回沙美アートフェスタ」(協賛)	25.5.12	50 点	50	10 万円
		マルク・シャガール展 チケットプレゼント	24.7.13 ～ 8.26	479 通	204 名	
		前橋汀子ヴァイオリンリサイタル チケットプレゼント	2410.5	275 通	50 名	17.5 万円
		食魂! 高校生コミック・イラストコンクール 2012 (協賛)	24.10.6 ～ 28	300 点	100 点	10 万円
		岡山県文化連盟 「文化のつどい」	24.10.6 24.11.17			30 万円
		マーチング・イン・オカヤマ (協賛)	24.10.7 ～ 8			4 万円
23	スポーツ	人形浄瑠璃「文楽」 チケットプレゼント	25.3.9 昼・夜の部・	174 通	20 名	8 万円
		「第 30 回山陽女子ロードレース大会」協賛	23.12.23	—	—	105 万円
		成通グループ・(株)マルセンススポーツ・文化振興財団 PRESENTS 東北楽天ゴールデンイーグルス野球教室	24.3.4	—	88 名	—
		プロ野球オープン戦チケットプレゼント	24.3.10 24.3.11	305 581	46 46	— —
	文 化	「第 7 回沙美アートフェスタ」(協賛)	23.5.14	—	—	10 万円
		岡山県文化連盟 「文化のつどい」	23.8.22、8.24	—	—	30 万円
		「川島基&松本和将スーパーピアノデュオリサイタル」会場 岡山シンフォニーホール	23.11.3	2,326	1,700 名	217.8 万円
		岡山県民俗芸能大会 (協賛)	23.11.19 ～ 20	—	—	10 万円
	スポーツ	「男子第 49 回女子第 40 回西日本学生ハンドボール選手権大会」協賛	22.7.10 ～ 14	—	—	2 万円
		マルセン小学生ソフトボール教室の開催	22.8.5	—	92 名	28.8 万円
		「第 29 回山陽女子ロードレース」協賛	22.12.23	—	—	105 万円
		女子バレーボール V・プレミアリーグ戦 チケットプレゼント	23.3.13	410	100 名	25 万円
22	文 化	「第 6 回沙美アートフェスタ」協賛	22.5.15	—	—	10 万円
		岡山県文化連盟 「文化のつどい」	22.8.25、8.28、9.1	—	—	47 万円
		「川島 基ピアノリサイタル」チケットプレゼント	22.9.26	—	30 名	10.5 万円
		「モネとジヴェルニーの画家たち」チケットプレゼント	23.2.25 ～ 4.10	527	300 名	4.5 万円
	スポーツ	アンデルセン・ミュージカル「ハンスの冒険」チケットプレゼント (成通グループ提供)	23.3.19	35	40 名	—
		「第 28 回全国ママさんバスケットボール交歓大会岡山大会」協賛	21.8.7 ～ 9	—	—	2 万円
		「第 2 回倉敷国際少年野球大会」協賛	21.8.22 ～ 23	—	—	10 万円
		「第 57 回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会」協賛	21.9.25 ～ 27	—	—	10 万円
	21	「マルセン少年/バレーボール教室」山陽ふれあい体育館	21.10.18	—	85 名	37 万円
		「第 28 回山陽女子ロードレース」協賛	21.12.23	—	—	105 万円
		「第 5 回沙美アートフェスタ」協賛	21.5.16	—	—	10 万円
		「朝鮮王朝の絵画と日本」 チケットプレゼント	21.6.5 ～ 7.12	187 通	200 名	16.6 万円
21	文 化	絵はがき (写真コンテスト入賞作品) プレゼント	21.7.25 ～ 29 募集	206 通	150 名	15.2 万円
		論文募集	21.9.1 ～ 10.31 募集	25 点	7 点	25.4 万円
		岡山県文化連盟 「文化のつどい」	21.9.5 / 9.12	—	—	35 万円
		「2009 マーチング・イン・オカヤマ」協賛	21.10.11 ～ 12	—	—	10 万円
	スポーツ	(株)NHK 文化センター 「アンデルセン in ホテルオークラ岡山」協賛	22.2.21	—	—	5 万円
		「悠久への回帰 高橋秀展」チケットプレゼント	22.3.5 ～ 4.4	178	100 名	8.4 万円

事業の記録

年度	区 分	イ ベ ント 名	実 施 日	応募数	決定数	金 額
20	スポーツ	「第31回岡山県少年剣道練成大会」協賛	20.6.7	—	—	10万円
		「第1回倉敷国際少年野球大会」協賛	20.8.23～24	—	—	10万円
		「第27回山陽女子ロードレース大会」協賛	20.12.23	—	—	105万円
		「マルセン少年陸上競技教室」開催	21.3.8	—	255名	32万円
		「第24回全国高等学校新体操選抜大会」協賛	21.3.26～28	—	—	10万円
		「第25回全国高等学校体操選抜大会」協賛	21.3.28～29	—	—	10万円
	文 化	「第4回沙美アートフェスト」協賛	20.5.10	—	—	10万円
		「おかやま国際音楽祭 2008」チケットプレゼント（成通グループ提供）	20.10.4	444通	100名	—
		「岡山学びフェスタ 2008」「マルセンバルーンアート教室」の開催	20.11.9	—	220名	7.4万円
		「おかやま子ども民俗芸能大会」協賛	20.11.8	—	—	10万円
		岡山県文化連盟 「文化講演会」協賛	20.11.30／12.21	—	—	35万円
		「マルセン写真コンテスト及び写真展」の開催	21.2.25～3.2	270点	36点	30万円
19	スポーツ	「第30回岡山県少年剣道練成大会」協賛	19.6.9	—	—	10万円
		「第26回山陽女子ロードレース大会」協賛	19.12.23	—	—	105万円
		「第56回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	20.2.11	—	—	10万円
		「マルセン少年サッカー教室」開催～湯郷 Belle の選手を招いて～ 岡山ドーム	20.3.8	—	207名	43万円
	文 化	「第3回沙美アートフェスト」協賛	19.5.12	—	—	10万円
		くらしきウィーク 2007 in Kansas City 協賛	19.7.25～8.1	—	—	10万円
		岡山県文化連盟 「文化講演会」協賛 「書道」「美術」「シンポジウム」	19.9.9・15・23	—	—	35万円
		第19回全国生涯学習フェスティバル 「まなびピア岡山 2007」「生涯学習見本市」へ出展 桃太郎アリーナ	19.11.2～6	県総合グラウンド入場者 17万2千人		48万円
	スポーツ	「第25回山陽女子ロードレース大会」協賛	18.12.23	—	—	105万円
		「第55回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	19.2.11	—	—	10万円
	文 化	「ポスト国体・フラワーロード事業」協賛	—	—	—	10万円
		「第2回沙美アートフェスト」協賛	18.5.13	—	—	10万円
		「川島 基比亚ノリサイタル」開催	18.11.3	431通	200名	約40万円
		コミュニティライブラリーの開設	18.8.4～19.2.16	—	—	—
17	スポーツ	岡山桃太郎アリーナ落成記念「オリンピックメダリスト体操競技演技会」協賛	17.6.5	—	—	21万円
		「第24回山陽女子ロードレース大会」協賛	17.12.23	—	—	105万円
		「第54回備前市えびす駅伝競走大会」協賛	18.2.11	—	—	10万円
	文 化	松本和将「ベートーヴェン3大協奏曲のタベ」チケットプレゼント（岡山シンフォニーホール）	17.4.30	—	100名	30万円
		岡山デジタルミュージアム開館記念「新シルクロード展」チケットプレゼント	17.10.21～12.18	452件	100名	9万円
		「あそべる!おもちゃ展」協賛（岡山デジタルミュージアム）	18.2.17～22	—	—	10万円
	スポーツ	「第23回山陽女子ロードレース大会」協賛	16.12.23	—	—	105万円
	文 化	岡山フィルハーモニック管弦楽団第26回定期演奏会 チケットプレゼント	17.3.11	710件	100名	36万円
16	スポーツ	「第31回岡山県少年剣道練成大会」協賛	20.6.7	—	—	10万円
		「第1回倉敷国際少年野球大会」協賛	20.8.23～24	—	—	10万円
		「第27回山陽女子ロードレース大会」協賛	20.12.23	—	—	105万円
	文 化	「マルセン少年陸上競技教室」開催	21.3.8	—	255名	32万円
		「第24回全国高等学校新体操選抜大会」協賛	21.3.26～28	—	—	10万円
		「第25回全国高等学校体操選抜大会」協賛	21.3.28～29	—	—	10万円
	スポーツ	「第4回沙美アートフェスト」協賛	20.5.10	—	—	10万円
		「おかやま国際音楽祭 2008」チケットプレゼント（成通グループ提供）	20.10.4	444通	100名	—
		「岡山学びフェスタ 2008」「マルセンバルーンアート教室」の開催	20.11.9	—	220名	7.4万円
	文 化	「おかやま子ども民俗芸能大会」協賛	20.11.8	—	—	10万円
		岡山県文化連盟 「文化講演会」協賛	20.11.30／12.21	—	—	35万円
		「マルセン写真コンテスト及び写真展」の開催	21.2.25～3.2	270点	36点	30万円

平成24年度 収支計算書(損益計算ベース)（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

(単位：円)			
科 目	予 算	平成 24 年度	増 減
＊ 一般正味財産増減のみ			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	150,000	30,000	120,000
定期預金利息	150,000	30,000	120,000
事業収益	55,129,400,000	52,061,702,540	3,067,697,460
景品売上収入	55,000,000,000	51,936,190,717	3,063,809,283
景品手数料収入	126,600,000	122,467,342	4,132,658
代行手数料	2,800,000	3,044,481	△ 244,481
受取寄付金	13,070,000	10,620,000	2,450,000
受取寄付金	13,070,000	10,620,000	2,450,000
雑収益	0	2,208	△ 2,208
受取利息	0	941	△ 941
雑収益	0	1,267	△ 1,267
経常収益計	55,142,620,000	52,072,354,748	3,070,265,252
(2) 経常費用			
事業費	55,132,350,000	52,063,501,159	3,068,848,841
景品仕入支出	55,000,000,000	51,936,190,717	3,063,809,283
景品手数料支出	121,000,000	117,273,719	3,726,281
給料手当			0
法定福利費			0
広告宣伝費			0
荷造運賃			0
賃借料			0
諸会費			0
交際接待費			0
旅費交通費			0
通信費			0
消耗品費			0
租税公課			0
減価償却費			0
地代・家賃			0
修繕費			0
助成事業費支出	2,500,000	2,858,000	△ 358,000
表彰事業費支出	4,700,000	4,254,684	445,316
イベント事業費支出	3,600,000	2,529,276	1,070,724
広報啓発事業費支出	550,000	394,763	155,237
印刷費			0
後援費			0
雑費			0
管理費	10,270,000	9,748,720	521,280
役員報酬	0	0	0
給料手当	2,800,000	2,824,800	△ 24,800
法定福利費	100,000	99,502	498
広告宣伝費	30,000	42,763	△ 12,763
荷造運賃	130,000	122,956	7,044
事業引当金	0	0	0
賃借料		18,720	△ 18,720
諸会費	10,000	10,000	0
交際接待費	180,000	122,097	57,903
旅費交通費	450,000	391,070	58,930
通信費	250,000	256,576	△ 6,576
消耗品費	240,000	198,318	41,682
租税公課	70,000	79,000	△ 9,000
減価償却費	0	0	0
地代・家賃	3,000,000	3,000,000	0
修繕費	10,000	2,500	7,500
諸謝金	0	0	0
印刷費	0	0	0
雑費	3,000,000	2,580,418	419,582
経常費用計	55,142,620,000	52,073,249,879	3,069,370,121
当期経常増減額	0	△ 895,131	895,131
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益		0	0
(2) 経常外費用		0	0
当期経常外増減額		0	0
当期指定正味財産増減額		0	0
正味財産期首残高	3,094,203	3,094,203	0
正味財産期末残高	3,094,203	2,199,072	△ 895,131

貸借対照表 (平成25年3月31日 現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流 動 資 産			
現金預金	2,377,520	2,349,207	28,313
貯蔵品	5,820	0	5,820
未収金	998,102	16,562,537	△ 15,564,435
前払費用	26,250	26,250	0
流動資産合計	3,407,692	18,937,994	△ 15,530,302
2 固 定 資 産			
(1)基本財産			
基本財産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2)特定資産			
特定預金	0	0	0
特定資産合計	0	0	0
(3)その他固定資産			
ソフトウェア	0	463,557	△ 463,557
その他固定資産合計	0	463,557	△ 463,557
固定資産合計	100,000,000	100,463,557	△ 463,557
資産合計	103,407,692	119,401,551	△ 15,993,859
II 負債の部			
1 流 動 負 債			
未払金	1,203,940	16,300,490	△ 15,096,550
預り金	4,680	6,858	△ 2,178
流動負債合計	1,208,620	16,307,348	△ 15,098,728
2 固 定 負 債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	1,208,620	16,307,348	△ 15,098,728
III 正味 産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	2,199,072	3,094,203	△ 895,131
正味財産合計	102,199,072	103,094,203	△ 895,131
負債及び正味財産合計	103,407,692	119,401,551	△ 15,993,859